

授業評価のトップページへ

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8203 材料学総論

Go

Reset

→→→ 編集する ←←←

記入日	平成 21 年 9 月 13 日		
授業科目名	材料学総論	(1 単独 2 分担)	1
担当教員名(全員)	市村稔	記入者名	稲見隆
前後期別 (1前期 2 後期)	1		
必修／選択 (1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)	1		
授業形態 (1 講義 2 実験・実習 3 演習)	1		

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスはガイドラインに従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進めたか

1 進めた 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行ったか

--	--

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	1
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	1
	レポート	1
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	42
Q2. 取止者数	2
Q3. 欠試者数	1
Q4. 受験者数	39
Q5. 不合格者数	2

Q6. 成績分布

A+	5.1 %	2 人
A	12.8 %	5 人
B	25.6 %	10 人

C	23.0 %	9 人
D	28.2 %	11 人
E	5.1 %	2 人
合計	100 %	39 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された 2 ほぼ達成された 3 達成されていない	2
理由	大学に入っていきなり、大学的授業で、高校までに存在しない“工学”、しかも内容的に予想しにくい“材料(マテリアル)工学”の入門科目として、授業設計は難しい。今年度は特に前半の基礎部分を重視し、後半(応用各論)にも基礎の一部を補充しながら、中間試験(追加レポート)と期末試験(追加試験)を経て、各自の到達度を慎重に評価した。合格率92.5%から、殆どの学生について授業目標を達成したと考える。なお、授業調整の結果、一部シラバスとの関係は非整合となった。

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列举してください

マテリアル専門の1年次必修授業として、理解度と合格率のアップが課題である。授業内容は、前半基礎+後半各論(一部基礎補充)⇒全体として基礎重視へ一段とシフトして理解度を深めた。中間試験+追加レポート、期末試験+追加試験などで、レポートの書き方や答案用紙の使い方など工学的報告のスキルアップも意識した。

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列举してください

090617中間アンケート、26/40名提出。全体平均は「(1)授業進度=少し遅い。(2)有効性=余り役立たない。(3)全体評価=余り良くない。」となった。基礎部分の理解不足や応用各論との対応不明瞭が原因のようなので、後半はこれらの点の改善に努めた。教科書不良の意見があるが、教員の口頭説明を以下にノートに取って纏めること、すなわち、音声文字に直す訓練が必要であるが、具体化が難しい。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列举してください

090722最終アンケートの結果の最多項目は、(1)自習0分、(2)得る所少ない、(3)進度は適当、(4)理解は少ない、(5)その原因は板書やパワーポイント、(6)シラバスは全く役に立たず、(7)成績評価は適当、となった。最適のテキストを選び、宿題や自習を増やし、板書やパワーポイントに注意し、シラバスに沿った授業展開によって、理解度と役立ち度が上がる。まずは授業の目的と目標を明示することが必要である。

●Q1: アンケートでは散々であったが、「材料学総論」がマテリアル専門科目の導入科目として有用であり、専門各授業への興味や理解度アップに大いに役立つことを期待する。

●Q2: 前半基礎は「結晶構造(面と方向)と格子欠陥」、後半冒頭に基礎として「平衡状態図」を追加し、残り各論で各種材料との関わりを強調した。

Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列举してください

材料工学の基礎項目をできるだけ絞って丁寧に解説し、同時に各種材料との関わりを分かり

やすく提示することに尽きる。そして、高校型(指示課題・解答記憶)から大学型(自己学習・課題解決)という授業対応形態への一日でも早い転換が最重要である。

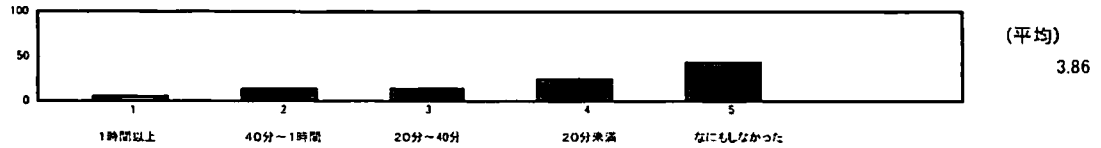
Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

- 宿題やレポート用紙はA4サイズ、1枚裏表とした。左側綴じ穴用の余白注意。
- 試験の不正行為では当期単位ゼロ(卒業1年延期)になることを明示。
- 試験は座席指定、試験終了30分前から、荷物をまとめて、教卓に答案提出、自席に戻らず、前ドアから退出する。その時、希望者は解答例(市村コメント)持ち帰るものとする。後ドアは開閉禁止。
- 出欠表を授業中回覧して出欠を取る。66%以上出席が受験資格。欠席状況は毎回全員が相互確認する。
- 緊急連絡は教養学生掲示板による。

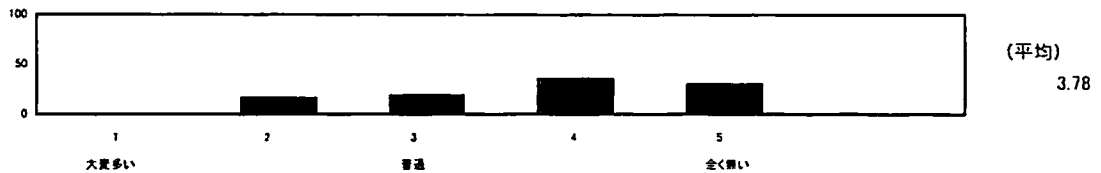
回答数: 37

処理: 2009/8/10

(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)



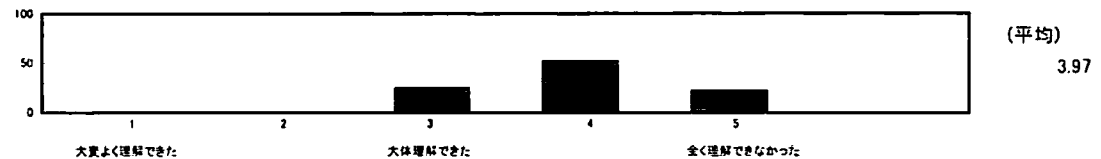
(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)



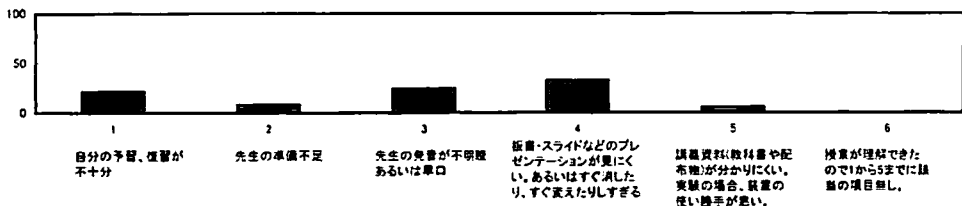
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)



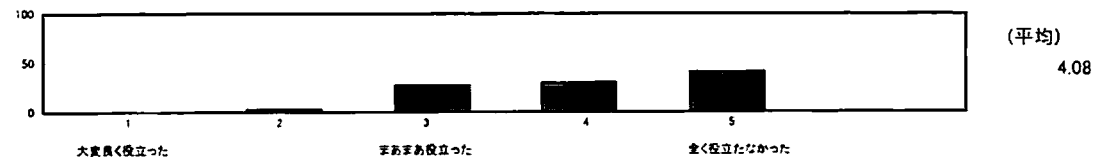
(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)



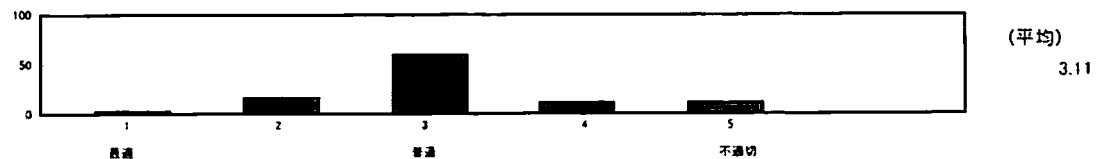
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)



(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)



時間割コード	T8203
科目名	材料学総論
学科名	マテリアル工学科
担当教員	市村 稔
カード枚数	37 枚
処理日時	2009/8/10

回答データ

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	2	5	5	9	16	0
2	0	0	6	7	13	11	0
3	0	10	8	11	4	4	0
4	1	0	0	9	19	8	0
5	3	8	3	9	12	2	0
6	0	0	1	10	11	15	0
7	0	1	6	22	4	4	0

回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	5.4	13.5	13.5	24.3	43.2	
2	0	0	16.2	18.9	35.1	29.7	
3	0	27	21.6	29.7	10.8	10.8	
4	2.7	0	0	24.3	51.4	21.6	
5	8.1	21.6	8.1	24.3	32.4	5.4	0
6	0	0	2.7	27	29.7	40.5	
7	0	2.7	16.2	59.5	10.8	10.8	

科目一覧(シラバス)

時間割コード	科目名	学科名	担当教員
T8203	材料学総論	マテリアル工学科	市村 稔

茨城大学工学部マテリアル工学科
平成 21 年度・前期学科教育点検報告書

平成 21 年度 10 月 13 日

報告者 マテリアル工学科 学科長 太田弘道

(作成:学科教育点検 WG : 太田弘道、篠嶋妥、田代優)

実施日時・場所・出席者 9 月 30 日 9:00-9:50 14:20-17:30・IT 基盤センター 205 研修室・出席はマテリアル工学科教員 10 名中 10 人、材料系教員 14 名中 10 人、工学部共通教員 2 人中 2 人、非常勤 (x4 人)、技術員 (2 人)、事務 (1 人) の出席者はゼロであった。マテリアル工学科教員 10 名:横田、太田、稲見、榎本、大貫、小檜山、篠嶋、鈴木、永野、田代 (欠席ゼロ名) 材料系教員 14 名:横田、太田、稲見、榎本、大貫、小檜山、篠嶋、鈴木、永野、田代、(欠席 4 名:米村、田附、西野、友田)、工学部共通 (欠席:細川 田附)、(欠席非常勤:星野、小野寺、寺門、市村、技術員:佐藤、武田、事務:新井)

授業点検の実際 今年度のマテリアル会議開催については関係教職員全員への学科長メールによって連絡し実施した。マテリアル工学科の全教員が参加したが、そのほかの参加者はゼロであった。全員が自分の行った授業についてその説明を行い、詳細な説明や質疑応答を行った。最後に各教員が発表に使った Web の入力結果と、アンケート結果、TA が配置されている授業では TA に関する全報告書を示した。また各教員による FD における討論のまとめ、JABEE 目標に対する検討結果の報告書も示した

Web 入力状況/アンケート実施/教育点検会議への出席/教育点検会議の討議のまとめ Web の入力状況、アンケート実施、教育点検会議への出席、教育点検会議のにおける討論のまとめ、JABEE 目標に対する検討結果の状況を報告書の最後に示した。

まとめ 以下に示す結果から明らかなようにマテアリアル工学科の教員については大半の担当科目について適正な教育点検が行われていることが分かる (会議への欠席はゼロ名)。ただし、それ以外の教員についてはまだ不十分な点もあると考えられ、今後のさらなる働きかけが必要である。共通系の教員については全学科の学科教育点検会議に出席を御願いするのは無理であると思われるのであたらなシステムを工学部で作る必要があると思われる。非常勤についても交通費だけの支給ではおいでいただくのは困難であるとおもう。

報告書の開示 この報告書と同じ内容の書類を学科事務室に備え非常勤講師を含め学科内外の関係全教職員が自由にこの報告書を閲覧できるようにする。一年間の事務室開示後、報告書は JABEE 関連資料コーナーに保存して、JABEE 審査に対応する。また学科の Web 上の文書アーカイブにも保存する。

その他 無し

[授業評価のトップページへ](#)

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

→→→ ←←←

記入日	平成 21 年 9 月 11 日		
授業科目名	基礎数学演習	(1 単独 2 分担)	1
担当教員名(全員)	横田仁志	記入者名	横田仁志
前後期別 (1 前期 2 後期)	1		
必修/選択 (1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)	1		
授業形態 (1 講義 2 実験・実習 3 演習)	3		

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスはガイドラインに従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進捗したか

1 進捗した 2 少し異なった 3 かなり異なった	2
異なった理由	昨年度まで、前半線形代数のみの担当だったが、今年度より後半部分積分の担当が増え、後半部分を授業を進めながら内容を変更したため。

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行ったか

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	1
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート 課題	1
	レポート	1
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	61
Q2. 取止者数	8
Q3. 欠試者数	0
Q4. 受験者数	53
Q5. 不合格者数	11

Q6. 成績分布

A+	33.9 %	18 人
A	24.5 %	13 人
B	7.5 %	4 人
C	20.7 %	11 人
D	7.5 %	4 人
E	5.6 %	3 人
合計	100 %	53 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された 2 ほぼ達成された 3 達成されていない	2
理由	取止のほとんどが過年度生だから。

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

演習として課す課題数を削らずに、時間内に解けなかった分は宿題とした。

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

(1)興味をもって取り組んでいるか: 約50%が非常に興味有り～やや興味有り、(2)ためになるか: 約75%が大変ためになる～ややためになる、(3)準備されているか: 約55%が大変良く～よく、(4)説明の速度: 15%がやや早い、(5)難易度: ほとんどが適切～普通、(6)問題数: ほとんどが適切～普通であった。 説明速度を早いと感じる学生がいるようなので、留意して説明した。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

(1)3.37、(2)2.53、(3)2.73、(4)2.67、(5)「自分の予習、復習が不十分」がほとんど、(6)3.31、(7)2.18であった。

進度の平均値が昨年度2.33、今年度2.73、理解度の平均値が昨年度3.03、今年度2.67でどちらも改善されたと考えられる。

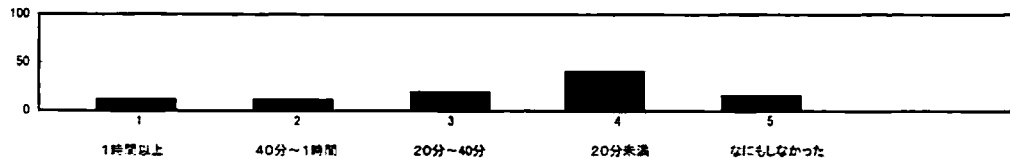
Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

残った分を宿題としたのが、効果があったのだろうか。今後もこの方法を続ける予定である。

Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

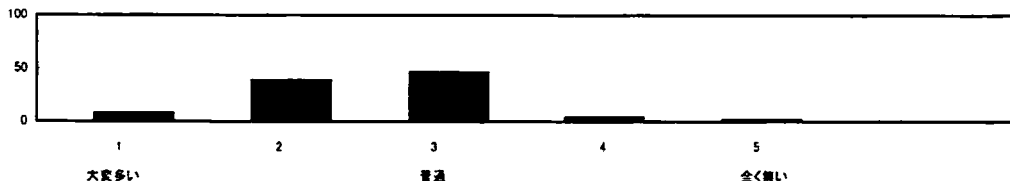
前半、後半毎のまとめの試験の難易度を下げた結果のためか、A+の人数が多い。普段の演習問題の成績とまとめの試験の結果が比例しない学生も居るので、来年度はまとめ試験の難易度を上げようと思う。

(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)



(平均)
3.37

(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)



(平均)
2.53

(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)



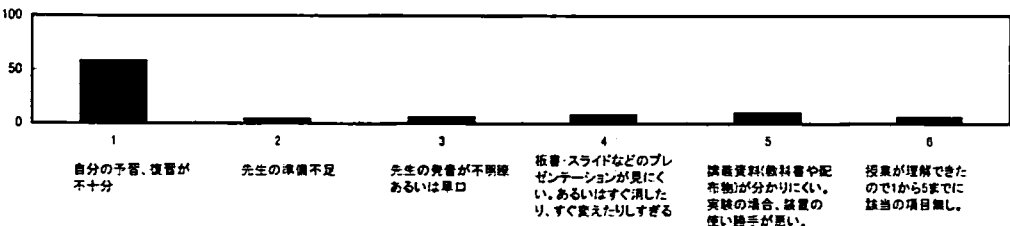
(平均)
2.73

(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)

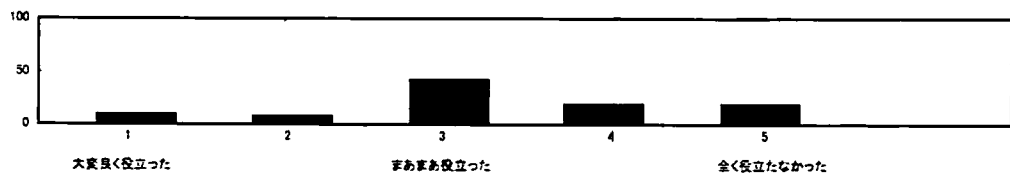


(平均)
2.67

(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)

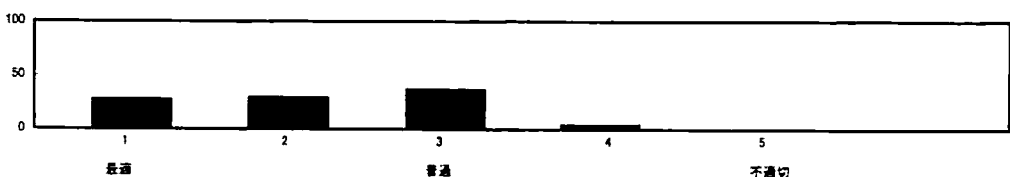


(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)



(平均)
3.31

(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)



(平均)
2.18

時間割コード	T8206
科目名	基礎数学演習
学科名	マテリアル工学科
担当教員	横田 仁志
カード枚数	52 枚
処理日時	2009/8/10

回答データ

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	1	6	6	10	21	8	0
2	1	4	20	24	2	1	0
3	1	3	11	35	1	1	0
4	1	6	13	24	8	0	0
5	5	30	2	3	4	5	3
6	1	5	4	22	10	10	0
7	2	14	15	19	2	0	0

回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	1.9	11.5	11.5	19.2	40.4	15.4	
2	1.9	7.7	38.5	46.2	3.8	1.9	
3	1.9	5.8	21.2	67.3	1.9	1.9	
4	1.9	11.5	25	46.2	15.4	0	
5	9.6	57.7	3.8	5.8	7.7	9.6	5.8
6	1.9	9.6	7.7	42.3	19.2	19.2	
7	3.8	26.9	28.8	36.5	3.8	0	

科目一覧(シラバス)

時間割コード	科目名	学科名	担当教員
T8206	基礎数学演習	マテリアル工学科	横田 仁志

様式1 (TA学生用)

平成21年度(前期)ティーチング・アシスタント(TA)実施報告書

報告書作成日: 21年8月27日

報告書作成者	物質工学 専攻	学生番号 09NM552R	氏名 大橋 康平
担当授業	マテリアル工学科 2年対象 科目名: 数学基礎演習		
授業の担当教員名	横田 仁志		
1. TA業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。	毎回の授業の最後に行われる演習問題の採点。		
2. 担当したTA業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例:事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)	採点をする際 点数を付ける基準が難しかった。		
3. TA業務を行って新たに得られたこと(知識や有用な経験など)を記入してください。	過去に自分が受けていた授業であったので復習することができ、より理解が深まった。		
4. その他、感想など自由に記入してください。	初めてのTAであったので いろいろ勉強になりました。		

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

様式2 (授業担当教員用)

平成21年度(前期)ティーチング・アシスタント(TA)実施報告書

報告書作成日: 2009年 8月 28日

学 科	マテリアル工学科		授業科目	基礎数学演習
担当教員	横田仁志		受講学生数	51名(学期終了後に記入)
担当 TA (全員の氏名)	大橋康平		時間数	17時間
オリエンテーションの実施内容	実施日時	オリエンテーションの内容		
	5月25日	1. TAの仕事は、前期月曜日2講時に実施した演習課題の採点である。 2. TAは授業終了後に担当から課題を受け取り、採点を行い、担当に返却する。 3. 解答例に従って採点を行い、各解答に対して評価点を記入する。 4. 計算問題なので、指示がある場合を除いて基本的に部分点は無しとする。 5. 総点、各ページ毎の点は記入しない。 6. 課題を別紙の出席表の学生番号順に並べる。 7. 課題の紛失をしないよう注意する。		
授業内容とそれに対する TA の業務内容	線形代数学と微分積分学の簡単な演習問題を課し、所定の用紙に解答を記入させ、採点し、翌週に返却することを毎週繰り返した。 TAは微分積分学7回分について、提出された各解答について採点を行った。			
TA実施による成果・意見・感想・要望	TAの採点に多くのミスがあり、結局自分で採点をやり直した。業務内容を考慮すると倍の時間、倍の人数で実施した方が良いと考える。			

記入方法

- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

[授業評価のトップページへ](#)

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8209 物理演習

Go

Reset

→→→ 編集する ←←←

記入日	平成 21 年 9 月 29 日		
授業科目名	物理演習	(1 単独 2 分担)	2
担当教員名(全員)	小檜山守・篠嶋 妥	記入者名	篠嶋 妥
前後期別 (1前期 2 後期)			1
必修／選択 (1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)			1
授業形態 (1 講義 2 実験・実習 3 演習)			1

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスはガイドラインに従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	1

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	1

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	1

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進化したか

1 進化した 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	1

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行ったか

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	1

平成 21 年 9 月 30 日 文責 篠嶋

物理演習 担当者 小檜山守・篠嶋 妥

2 年前期必修・講義

学習内容の区分＝数学・自然科学・情報技術 22.5 時間

学習目標＝ (C) ◎, (G) ○

C. マテリアル工学技術者に必要な数学、物理、情報処理に関する基礎知識とその応用能力の修得

G. 自主的、継続的に学習する能力の修得

学習目標 (C) については、マテリアル工学の基礎としての、物理の基礎知識を身に付けさせることができたので、十分に達成できたと考える。例題を多く用いた、わかりやすい説明を心がけている。1 度に学ぶことは 1 つに絞り、1 つの例題に対して必ず 1 つ類題をやってもらった。この方式は概して好評であることが、中間アンケートで確認された。

学習目標 (G) については、最終アンケートの結果から予習復習時間がやや不足していることがうかがえるので、今後予習復習をせざるを得ない仕掛けを作り、多くの演習問題を解かせる方向で改善を考えたい。

FD において、学生に予習復習をさせる効果的なシステムについて議論した。問題を宿題として出し、本科目のように TA を配置した科目においては TA をもっと活用すべきであること、その際 TA 配置を適材適所で考えるべきことを確認した。

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	1

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	1

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	1
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	1
	レポート	1
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	60
Q2. 取止者数	0
Q3. 欠試者数	8
Q4. 受験者数	52
Q5. 不合格者数	5

Q6. 成績分布

A+	5.7 %	3 人
A	9.6 %	5 人
B	28.8 %	15 人
C	25.0 %	13 人
D	21.1 %	11 人

E	9.6 %	5 人
合計	100 %	52 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された	2 ほぼ達成された	3 達成されていない	1
理由	マテリアル工学の基礎としての、物理の基礎知識を身に付けさせることができた。		

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

項目別のポイントは3より小さく、特に問題の項目はなかった。
自由記述で、前半と後半の分野の差、量が違いすぎると言う指摘が一件あった。
→前半6回＋中間試験、後半8回＋定期試験の計16回の授業となった。この結果、前半と後半の学習量の差は改善された。

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

もっと演習問題を(6)／教科書のページ数を言って(3)／教室が狭い(2)／演習時間・問題を解く時間が短い(2)／教科書を使って説明を／前半の指導方法(4)／解答する問題番号が分かりづらい／やる問題を早く言って／問題の解説(2)／前回の演習の説明をプリントにして配って／板書の仕方を見やすく(3)／
→演習問題については工学部HPにミニマム試験の過去問題があることを伝え、自学自習するように指示した。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

評価項目(2)(ためになるか)が2.84、(3)進捗の適切性が2.62と好評価。その反面、(1)予習復習時間3.89、(4)理解度3.08 とやや劣り、(5)授業が理解できなかった理由で予習復習不足の回答率が50%に達している。予習復習をせざるを得ない仕掛けを作る必要があるようである。

Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

教室が狭いとの指摘を受けた(302教室)。過年度生を加えると確かに狭いので、もう少し広い教室を希望する。
予習復習をせざるを得ない仕掛けを作り、多くの演習問題を解かせる。

Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

例題を多く用いたわかりやすい説明を心がけている。1度に学ぶことは1つに絞る。1つの例題に対して必ず1つ類題をやってもらう。
この方式は概して好評である。→中間アンケート 分かりやすい(6)／演習をやるので理解が深まる(16)／進む速さがゆっくり／物理化学の復習になる(3)／解説と演習の時間配分がちょうど良い／板書が適切(5)／プリント／ポイントを抜き出してある／広い範囲を学べて楽しい／先週の復習をする(2)／問題の難易度が適切／演習問題が返却されるので復習が容易／

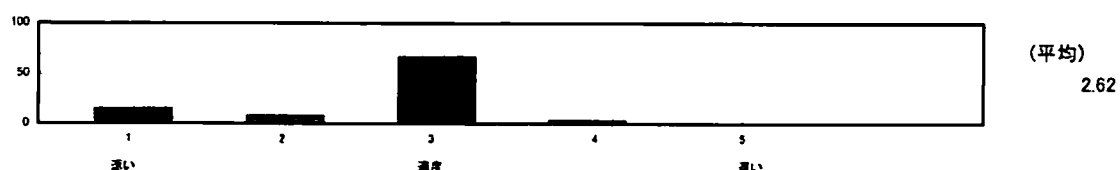
(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)



(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)



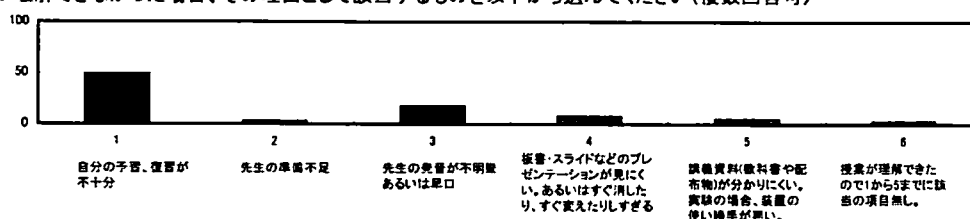
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)



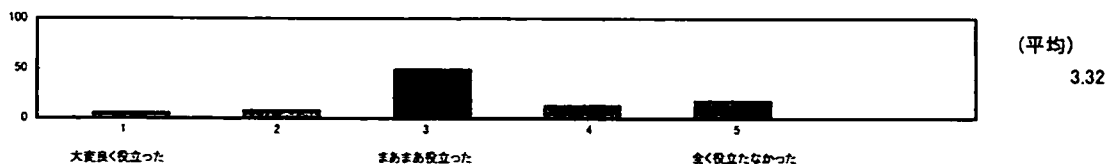
(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)



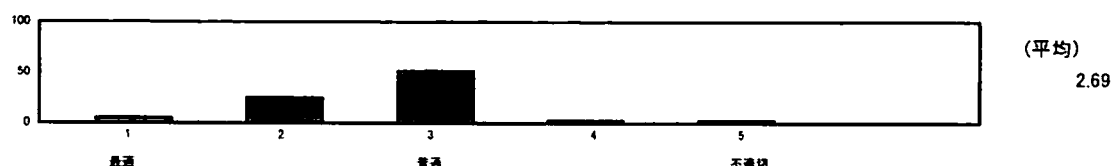
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)



(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)



時間割コード	T8209
科目名	物理演習
学科名	マテリアル工学科
担当教員	小樽山 守・篠嶋 妥
カード枚数	41 枚
処理日時	2009/8/10

回答データ

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	4	1	1	12	10	13	0
2	4	1	10	20	6	0	0
3	4	6	3	27	1	0	0
4	4	3	3	20	10	1	0
5	7	20	1	7	3	2	1
6	4	2	3	20	5	7	0
7	6	2	10	21	1	1	0

回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	9.8	2.4	2.4	29.3	24.4	31.7	
2	9.8	2.4	24.4	48.8	14.6	0	
3	9.8	14.6	7.3	65.9	2.4	0	
4	9.8	7.3	7.3	48.8	24.4	2.4	
5	17.1	48.8	2.4	17.1	7.3	4.9	2.4
6	9.8	4.9	7.3	48.8	12.2	17.1	
7	14.6	4.9	24.4	51.2	2.4	2.4	

科目一覧(シラバス)

時間割コード	科目名	学科名	担当教員
T8209	物理演習	マテリアル工学科	小樽山 守・篠嶋 妥

様式 2 (授業担当教員用)

平成 21 年度 (前期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日: 21 年 8 月 25 日

学 科	マテリアル工学科	授業科目	物理演習		
担当教員	篠 嶋 妥 	受講学生数	60 名 (学期終了後に記入)		
担当 TA (全員の氏名)	吉 田 貴 行	時間数	17 時間		
オリエンテーションの実施内容	実施日時	オリエンテーションの内容			
	6 月 5 日	毎回授業の中で演習問題を工学部解答用紙 1 枚にやって提出してもらう授業形態を説明し、その採点補助を依頼した。成績記入用のエクセルファイルをコピーして渡して、10 点満点で記入するよう指示した。また、個人情報を含むので、情報漏えいに注意するよう指示した。			
授業内容 とそれに対する TA の業務 内容	工学基礎ミニマム物理の教科書を用いて、1 回にほぼ 1 章の内容を説明し、毎回授業の中で演習問題を工学部解答用紙 1 枚にやって提出してもらう。この演習の採点補助および成績記入補助が TA の業務内容である。				
TA 実施による成果・意見・感想・要望	TA の演習採点補助により、授業内容の検討・改良に時間を集中することができた。来年度も、本年度と同程度の TA 実施を希望する。				

記入方法

- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

材料学総論 担当者 市村稔

1 年前期必修・講義

学習内容の区分=(1)材料の構造・性質に関する基本の理解 7.5 時間

(2)材料のプロセスに関する基本の理解 7.5 時間

(3)材料の機能および設計・利用に関する基本の理解 7.5 時間

学習目標 = (D) ◎、(G) ○

D. マテリアル工学の専門知識とその応用能力の習得

D-1 マテリアルの構造・性質に関する基本の理解

D-2 マテリアルのプロセスに関する基本の理解

D-3 マテリアルの機能および設計・利用に関する基本の理解

G. 自主的、継続的に学習する能力の修得

学習目標 (D) については、材料 (マテリアル) 工学の入門科目として、材料の構造および平衡状態図等の基礎概念およびそれらの各種材料との関わりを強調して説明し、基礎概念の理解を深めることができたので、入門科目としての目標はほぼ達成できたと考えられる。広範な講義内容のため広く浅くとの説明になりがちで、分野によって説明不足の不満がアンケート結果から伺われ、今後改善する必要がある。

学習目標 (G) については、最終アンケートの結果から予習復習時間がかなり不足していることがうかがえるので、演習問題をレポートとして課すなど、講義外における学習時間の改善を図りたい。

FD において、教員の講義担当数過多の現状を考慮して講義としての総論の存在意義および 1 年次における講義外勉学意識の啓蒙について議論した。材料学総論の (可能な範囲での) 複数教員担当、総論を廃止しマテリアルゼミナールあるいは他の専門講義を 1 年次開講とするなどの意見が出された。これらを踏まえて、材料学総論の改変につてカリキュラム検討委員会での議論の必要性を確認した。

様式1 (TA学生用)

平成 21年度 (前期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日: 21年 8月26日

報告書作成者	物質工学 専攻	学生番号 09NM560T	氏名 吉田 貴行 
担当授業	マテリアル工学科 2年対象 科目名: 物理演習		
授業の担当教員名	篠 嶋 妥		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。		毎回授業で提出される演習問題の採点補助	
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例: 事前のオリエンテーションが不十分, 業務の内容が複雑すぎるなど)		特になし	
3. TA 業務を行って新たに得られたこと (知識や有用な経験など) を記入してください。		特になし	
4. その他、感想など自由に記入してください。		特になし	

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

平成 21 年 9 月 30 日 文責 榎本

材料組織学入門 担当者 榎本正人

2 年前期必修・講義

学習内容の区分＝専門分野(1) 材料の構造・性質に関する基本の理解、 22.5 時間

学習目標＝ (D) ◎, (G) ○

D. マテリアル工学の専門知識とその応用能力の修得

G. 自主的、継続的に学習する能力の修得

学習目標 (D) については、マテリアル工学の専門知識として、熱力学と速度論を基礎とした材料組織の生成について講義した。テキストはやや高度であるが、系統的に書かれており、例題も交えてあり、所定の効果は得られたと思う。

学習目標 (G) については、演習科目「材料組織学演習」が 3 年次前期に配置されている。この講義と演習との間が空きすぎているので、次にカリキュラムを編成するときには、連続した学期に配置するよう心がける。

授業評価のトップページへ

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8210 材料組織学入門

Go

Reset

→→→ 編集する ←←←

記入日	平成 年 月 日		
授業科目名	材料組織学入門	(1 単独 2 分担)	1
担当教員名(全員)	榎本正人	記入者名	
前後期別 (1前期 2 後期)			1
必修/選択 (1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)			1
授業形態 (1 講義 2 実験・実習 3 演習)			1

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスはガイドラインに従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進化したか

1 進化した 2 少し異なった 3 かなり異なった	2
異なった理由	理解度が浅いと感じたため、環境劣化は話せなかった。

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行ったか

--	--

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	0
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	2
	レポート	2
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	61
Q2. 取止者数	2
Q3. 欠試者数	4
Q4. 受験者数	59
Q5. 不合格者数	6

Q6. 成績分布

A+	7.2 %	4 人
A	9.0 %	5 人
B	12.7 %	7 人

C	36.3 %	20 人
D	23.6 %	13 人
E	10.9 %	6 人
合計	100 %	55 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された 2 ほぼ達成された 3 達成されていない	2
理由	合格ラインすれすれが多い

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

昨年までは、前半榎本(平衡論)、後半市村(速度論)の2名で担当したが、市村先生の退官により、榎本が学期を通して担当した。出席の確認は出欠表を回覧し、記入する方法をとった。ときどき、確認のため、口頭で連呼し、記入内容を確認している。

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

高大連携で日立一高より2名受講した(上の受講者数には入っていない)。非常に熱心に聴講したが、内容が高度で高校生にはむずかしいとの感想があった。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

教室の最後列にすわる学生は決まっている。ほぼ、毎回のよう到最后列の学生に当てて質問したが、受講態度はあまり改善されなかった。

Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

専門科目としては受講生がやや多すぎる。過年度生は多くても10名程度にしたい。

Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

アンケート結果では理解度が低い。教科書は外国の教科書の翻訳本である。これに匹敵するような国内の教科書は見当たらないのが現状である。内容は充実しているが、読む習慣がついていない学生にはわかりにくいところもある。

時間割コード	T8210
科目名	材料組織学入門
学科名	マテリアル工学科
担当教員	榎本 正人
カード枚数	41 枚
処理日時	2009/8/10

回答データ

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	0	1	11	19	10	0
2	0	3	5	25	6	2	0
3	0	8	11	22	0	0	0
4	0	0	1	11	18	11	0
5	1	24	2	6	4	4	0
6	0	1	1	16	9	14	0
7	0	3	7	28	2	1	0

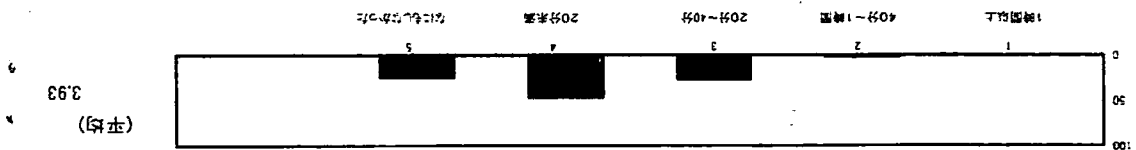
回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	0	2.4	26.8	46.3	24.4	
2	0	7.3	12.2	61	14.6	4.9	
3	0	19.5	26.8	53.7	0	0	
4	0	0	2.4	26.8	43.9	26.8	
5	2.4	58.5	4.9	14.6	9.8	9.8	0
6	0	2.4	2.4	39	22	34.1	
7	0	7.3	17.1	68.3	4.9	2.4	

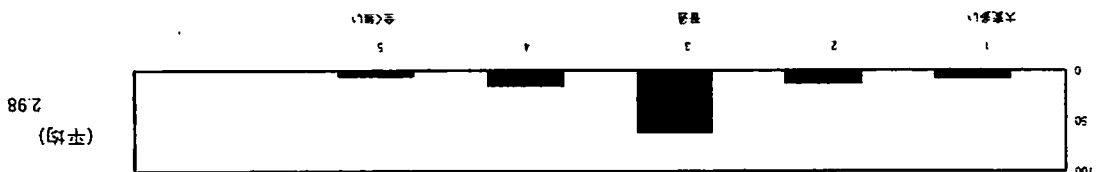
科目一覧(シラバス)

時間割コード	科目名	学科名	担当教員
T8210	材料組織学入門	マテリアル工学科	榎本 正人

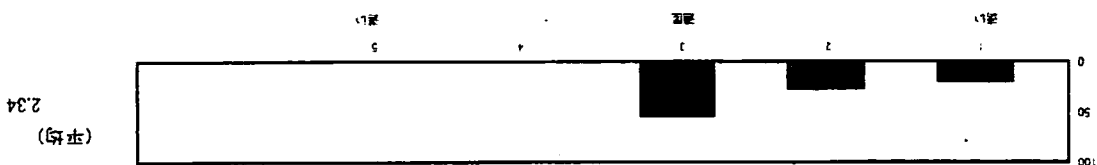
(1)この授業についての程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)



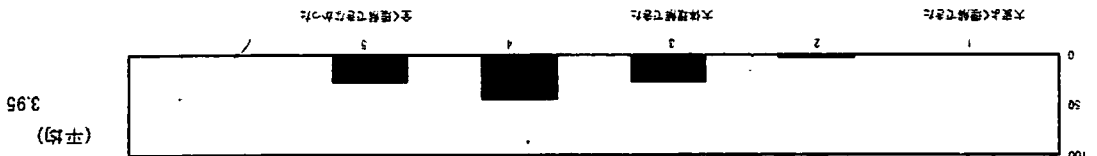
(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)



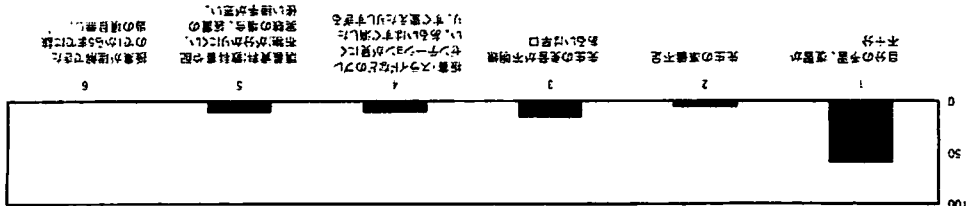
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)



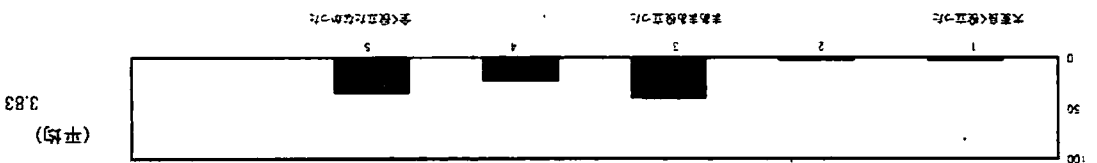
(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)



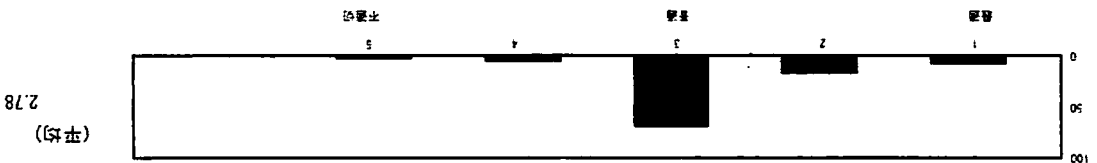
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)



(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)



平成 21 年 9 月 30 日 文責 太田

計算材料学基礎 担当者 太田弘道

2 年前期必修・講義

学習内容の区分＝数学・自然科学・情報技術 22.5 時間

学習目標＝ (C) ◎、(G) ○

C. マテリアル工学技術者に必要な数学、物理、情報処理に関する基礎知識とその応用能力の修得

G. 自主的、継続的に学習する能力の修得

学習目標 (C) については、マテリアル工学の基礎としての計算機を使って計算にかかわる様々な問題を解決するための基礎を身に付けさせることができたので、十分に達成できたと考える。演習問題を組み合わせた分かりやすい授業を心がけており、また計算機を用いて解析的な解を導出することやグラフを書くこと、プログラムフローの基礎などの様々なことを教えることができた。

学習目標 (G) については、演習形式で TA の力も借りて授業を行っているので多くの学生が積極的に学習していると考えられるが、さらに多くの学生に自主的、継続的に学習する能力がつくように努力したい。

FD においては、自立的で自ら学ぶ力のある学生に対しては Web を用いた自学自習のシステムが有効であるが、そうした学生を教員の手抜きであると嫌う学生もいる。しかし実際には Web を用いた自学自習のシステムで実施した年もあるが、作成に苦勞し、特に自習させるばかりでなくその結果を評価しなくてはならないのに、教員の手抜きであると思われるので今年は完全に板書で授業を行ったが、やる気のある学生向けに自学自習の Web によるシステムもなんとかやりたいと思っているという点を中心に授業評価シートをもとに説明を行った。

[授業評価のトップページへ](#)

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8213 計算材料学基礎

Go

Reset

→→→ [編集する](#) ←←←

記入日	平成 21 年 9 月 13 日		
授業科目名	計算材料学基礎	(1 単独 2 分担)	1
担当教員名(全員)	太田弘道	記入者名	太田弘道
前後期別(1前期 2 後期)	1		
必修/選択(1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)	1		
授業形態(1 講義 2 実験・実習 3 演習)	1		

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスは[ガイドライン](#)に従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進捗したか

1 進捗した 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行ったか

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	1
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	1
	レポート	1
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	58
Q2. 取止者数	9
Q3. 欠試者数	0
Q4. 受験者数	41
Q5. 不合格者数	6

Q6. 成績分布

A+	2.1 %	1 人
A	17.0 %	8 人
B	17.0 %	8 人
C	21.2 %	10 人
D	29.7 %	14 人

E	12.7 %	6 人
合計	100 %	47 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された 2 ほぼ達成された 3 達成されていない	2
理由	やや、Dが多すぎるがEはそれほど多くない。

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

昨年度の授業は私の作成したWebとRenandiを中心とした授業で理解度はかなり高い授業となった。しかし、数人だが、中間アンケートおよび最終アンケートの裏書きを見るとWebを中心として構成された授業に対して非常に強い反発があった。通常の授業のような教員との直接的な関係に執着する学生がいることが分かったので、昨年度の授業を終えた段階では以下のように考えていた。「Webに完全に移行して、授業時間は説明は行わず、質問、回答、討論の時間とすることで、来年は学生と密着した授業を構成する。またこうした方針を最初に学生にしっかり伝え、学生との相互理解を図る。」しかし、学生に直接話を聞くと、やはり板書したものを書くと覚えるという学生が少なくなかったので今年は通常の授業形態で授業をやった。また演習問題が多すぎるという批判があったので演習問題を減らした

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

授業形態に対するアンケートを行ったが、おおむね、好評だった。関数の副作用についての理解度を問うアンケートを行った。分かっていない人が多い。多くのプログラミング言語で使われる手法なので分かりやすく再度説明した。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

ほぼ問題がない。ほとんど、3の部分にピークが来る結果となった。しかし成績は低いほうに得点のピークがあり、実際に少し複雑なアルゴリズムはプログラミングできない。さらに初歩から教えて、複雑な部分も時間をかけて教える。

Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

昨年の私の作成したWebとRenandiを中心とした授業と比較すると、可もなく不可もなしという授業になった。やる気のある人のためにWebでの授業を平行してやりたいが、いいアイデアが浮かばない。

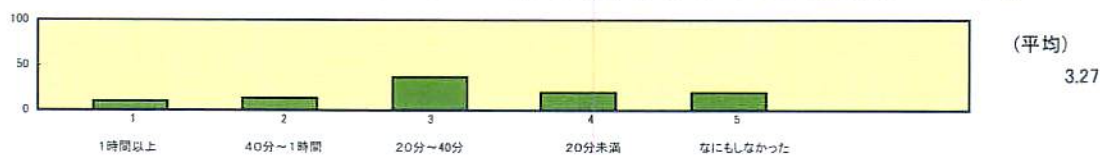
Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

生まれつきぼそぼそ話すほうなので、気をつけているが、まだその癖が抜けないときがある。発声の仕方や分かりやすい話し方の本を買った。読んで改善していきたい。

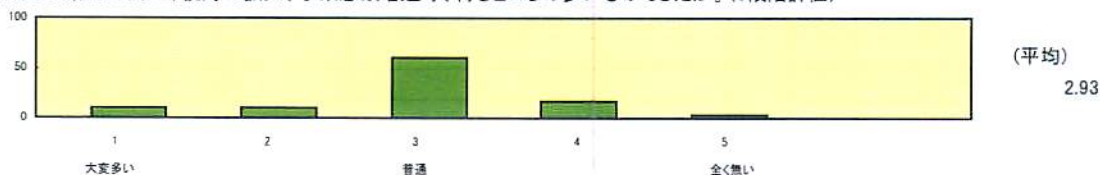
回答数: 30

処理: 2009/8/10

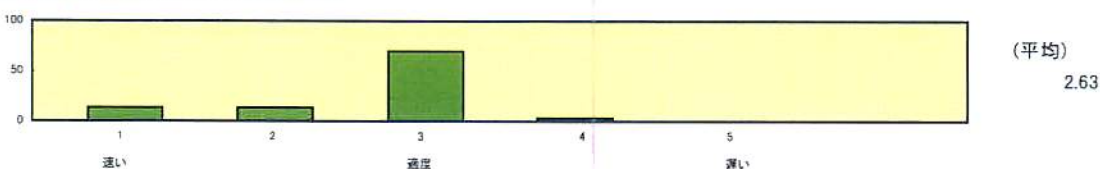
(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)



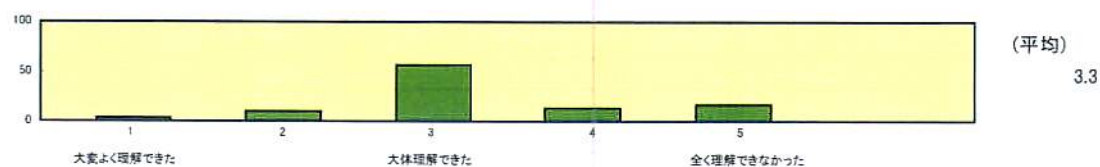
(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)



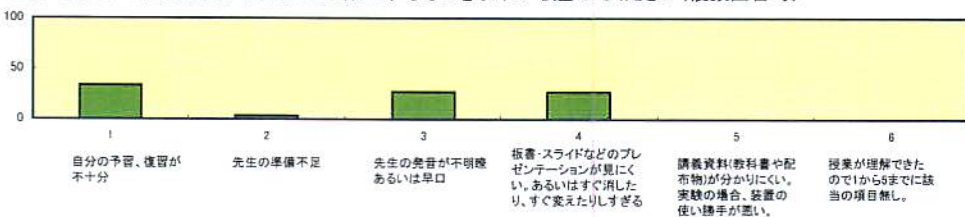
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)



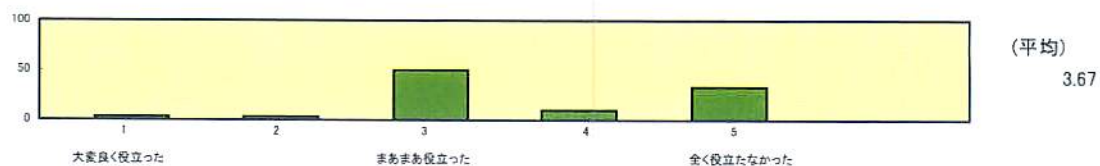
(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)



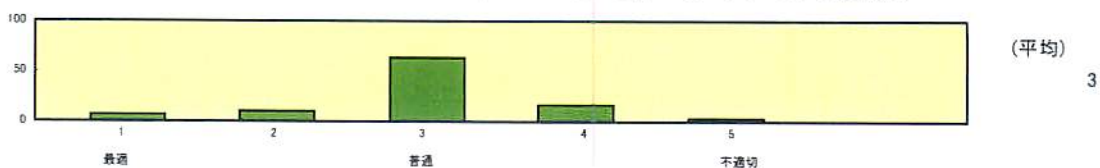
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)



(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)



時間割コード	T8213
科目名	計算材料学基礎
学科名	マテリアル工学科
担当教員	太田 弘道
カード枚数	30 枚
処理日時	2009/8/10

回答データ

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	3	4	11	6	6	0
2	0	3	3	18	5	1	0
3	0	4	4	21	1	0	0
4	0	1	3	17	4	5	0
5	3	10	1	8	8	0	0
6	0	1	1	15	3	10	0
7	0	2	3	19	5	1	0

回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	10	13.3	36.7	20	20	
2	0	10	10	60	16.7	3.3	
3	0	13.3	13.3	70	3.3	0	
4	0	3.3	10	56.7	13.3	16.7	
5	10	33.3	3.3	26.7	26.7	0	0
6	0	3.3	3.3	50	10	33.3	
7	0	6.7	10	63.3	16.7	3.3	

科目一覧(シラバス)

時間割コード	科目名	学科名	担当教員
T8213	計算材料学基礎	マテリアル工学科	太田 弘道

様式 2 (授業担当教員用)

平成 21 年度 (前期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日: 22 年 8 月 22 日

学 科	マテリアル工学科	授業科目	計算材料学基礎		
担当教員	太田弘道	受講学生数	2 名 (学期終了後に記入)		
担当 TA (全員の氏名)	根本高志、佐藤直子	時間数	授業 15 回分		
オリエンテーションの実施内容	実施日時	オリエンテーションの内容			
	08.04.24 2:00~2:30	採点基準、レナンディを用いた採点のやり方、模範解答などを示した。今年 TA 用のホームページを作成したのでそのアドレスとパスワードを示し、見るように指示した			
授業内容 とそれに対する TA の業務 内容	授業内容はプログラミングの基礎。授業で毎回簡単なプログラミングの作成を宿題として出してそれに対する解答の採点を TA の業務とした。				
TA 実施による 成果・意見・ 感想・要望	採点は TA にとっても学生にとってもプログラミングの実力をつけるために有効だったと考える。昨年は、TA からは支払われる賃金に対して量が多すぎるとの苦情があったので、負担を昨年から 2/3 程度に減らした。 通常 TA は自分の受けた授業の TA を行うことが多いが、カリキュラムの改訂で今年の TA は必修の授業であるがこの授業を受けていない。こうした点も考慮し TA の仕事の量を経減らし、かつ簡単にした。				

記入方法

- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。

様式1 (TA学生用)

平成20年度 (前 期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日: 2009年 8月25日

報告書作成者	応用粒子線科学 専攻	学生番号 08NM007A	氏名: 太田 直子
担当授業	マテリアル工学科 2年対象 科目名: 計算材料学基礎		
授業の担当教員名	太田 弘道		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。		毎週の授業で出題される課題の採点をおこなった。	
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例: 事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)		採点の期限が明確に設けられていなかったの で、採点をするのを忘れてしまったりした。	
3. TA 業務を行って新たに得られたこと (知識や有用な経験など) を記入してください。		学部有的时候には計算材料学はただのプログラミングの勉強としか思えなかったが、材料学への応用の仕方やポイントをきちんと教えていただいたことに気がついた。	
4. その他、感想など自由に記入してください。		改めて学部の授業に参加し、復習できてよかったと思った。	

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、太田弘道 (図書館分館長室) に提出ください。提出締切は8月27日とします。

様式1 (TA学生用)

平成21年度(前期)ティーチング・アシスタント(TA)実施報告書

報告書作成日:平成21年 8月 25日

報告書作成者	物質工学専攻	学生番号 08NM527A	氏名 根本高志 
担当授業	マテリアル工学科 2年対象 科目名:計算材料学基礎		
授業の担当教員名	太田 弘道		
1. TA業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。		課題の採点、質問への回答	
2. 担当したTA業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例:事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)		解答を何も書かずただわからないと聞いてくる学生に説明するのが難しかった。	
3. TA業務を行って新たに得られたこと(知識や有用な経験など)を記入してください。		実験で使用した Mathematica は研究でも使用している言語だが、これまで知らなかった関数などを使っている場合があり、理解が深まった。	
4. その他、感想など自由に記入してください。			

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、太田弘道(図書館分館長室)に提出ください。提出締切は8月27日とします。

材料物理化学 I

授業科目名 材料物理化学 I 担当教員名 田代優 前期 必修

項目 C: 成績と達成度

履修者数 64 取止者数 7 欠試者数 0 受験者数 58 不合格者数 10

成績分布 A+ 7.0 % 4 人 A 3.5 % 2 人 B 17.5 % 10 人 C 24.5 % 14 人 D 29.8 % 17 人 E 17.5 % 10 人 合計 100 % 57 人

授業の狙いは達成されたか ほぼ達成された 理由 受験者の 82%が合格したが、合格者の 54%が「C」および「D」であったため。

点検結果と改善

問題点

1. 授業進度を落としたため、シラバスで予定していた最終章を説明出来なかった。
2. 大体理解できたと評価するものが多く、これが成績評価の「C」、「D」に相当することが分かった。
(成績分布と似ている)
3. 授業の復習が不足している

問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列举してください

1. 講義内容の精選を図り、重要項目を絞って講義を行いたいと考える。しかし、復習をしない受講生が説明しなかった部分を自習するか心配である
2. 理解度をチェックするために授業の終わりに小テスト実施したいと考えるが、講義範囲が広く実施は難しいと思われる。
3. 教科書を講義受講後に必ず一度読むように指導する。

●学科の教育目標／授業のカリキュラムでの位置づけに照らした授業達成度の点検

(D) -2.マテリアルのプロセスに関する基本の理解

(G) 自主的、継続的に学習する能力の修得

以上二項目がこの授業に対する学科の教育目標／授業のカリキュラムでの位置づけである。(D) -2.マテリアルのプロセスに関する基本の理解に関しては、材料プロセス学を学ぶ上で必要不可欠な物理化学の基礎について、気体の性質（状態方程式・気体運動論）、熱力学、純物質の相平衡および混合物の性質について幅広い講義を行った。その結果、授業の狙いは、受験者の 82%が合格したが合格者の 54%が「C」および「D」であったため、ほぼ達成されたと評価した。(G) 自主的、継続的に学習する能力の修得については、アンケート調査の結果、復習している受講生の割合が低く達成されていないと評価した。この点については、即効性のある具体的改善策が見当たらず、入学時からの学生への啓蒙活動が必要と考える。

FD における改善等の議論

受講生の学習時間が JABEE の謳う学習保証時間に遥かに達していないことがアンケートから明らかとなった。この点について議論をしたが、即効性のある具体的改善策が見当たらず、入学時からの学生への啓蒙活動が必要との結論に至った。具体的な対処行動については、ノートのとり方の講義、ノートチェック等の実施が挙げられるが、さらに議論が必要との結論に至った。

以上

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8214 材料物理化学I

Go

Reset

編集する

記入日	平成 21 年 9 月 25 日		
授業科目名	材料物理化学I	(1 単独 2 分担)	1
担当教員名(全員)	田代優	記入者名	田代優
前後期別 (1前期 2 後期)			1
必修/選択 (1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)			1
授業形態 (1 講義 2 実験・実習 3 演習)			1

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスはガイドラインに従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進化したか

1 進化した 2 少し異なった 3 かなり異なった	2
異なった理由	1.教科書の内容のほかに重要と思われる項目を補足したため 2. 宿題の出来具合で授業進度を落としたため

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行ったか

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	1
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	1
	レポート	1
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	64
Q2. 取止者数	7
Q3. 欠試者数	0
Q4. 受験者数	58
Q5. 不合格者数	10

Q6. 成績分布

A+	7.0 %	4 人
A	3.5 %	2 人
B	17.5 %	10 人
C	24.5 %	14 人
D	29.8 %	17 人
E	17.5 %	10 人
合計	100 %	57 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された 2 ほぼ達成された 3 達成されていない	2
理由	受験者の82%が合格し、

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

1. 復習の重要性をガイダンス時に説明
2. 中間試験の実施(最終試験の範囲が広いので)
3. テスト実施時に持ち込み可能な用紙を配布して要点の整理をさせ、これもテストと同時に回収して評価の一部に使う。(検討中)

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

問題点

1. 復習を全くしない受講生が6割に上ることが明らかとなった。
2. 授業進度が「やや速い」と訴える学生が多いことが分かった。

改善策

1. 宿題をほぼ毎回出しているが、授業前に慌てて友人のレポートを写している始末である。毎回復習することを繰り返し説諭することとした。
2. 授業進度を犠牲にして理解を深める方向へ方針を転換した。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

- Q1の1はガイダンス時に強調したが、中間アンケートでは効果があまり見られなかった。しかし、最終アンケートでは幾分改善していることが分かった。
Q1の2については、授業進度との関係から中間試験の時間が確保できず断念した。
Q1の3は今年より実施し、広範囲にわたるテストの復習となったと考えられる。
Q2の1については最終アンケートで改善が見られ、毎回の説諭の効果を感じた。
Q2の2については最終アンケートでは普通と回答するものが増え改善が見られた。

問題点

1. 授業進度を落としたため、シラバスで予定していた最終章を説明出来なかった。
2. 大体理解できたと評価するものが多く、これが成績評価の「C」、「D」に相当することが分かった。(成績分布と似ている)
3. 授業の復習が不足している

Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

1. 講義内容の精選を図り、重要項目を絞って講義を行いたいと考える。しかし、復習をしない受講生が説明しなかった部分を自習するか心配である
2. 理解度をチェックするために授業の終わりに小テスト実施したいと考えるが、講義範囲が広く実施は難しいと思われる。
3. 教科書を講義受講後に必ず一度読むように指導する。

Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

なし

回答数: 33

処理: 2009/9/30

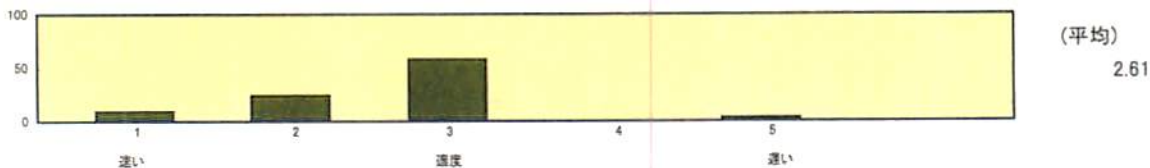
(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)



(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)



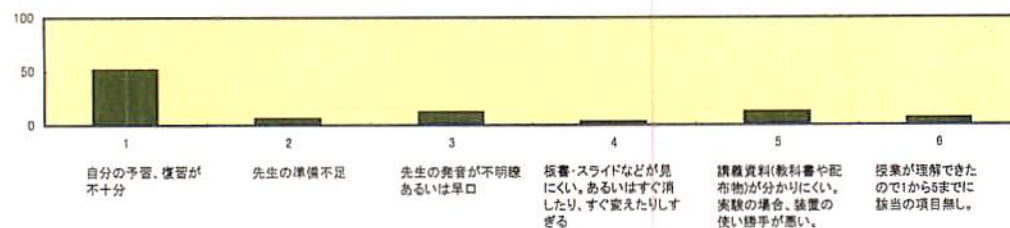
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)



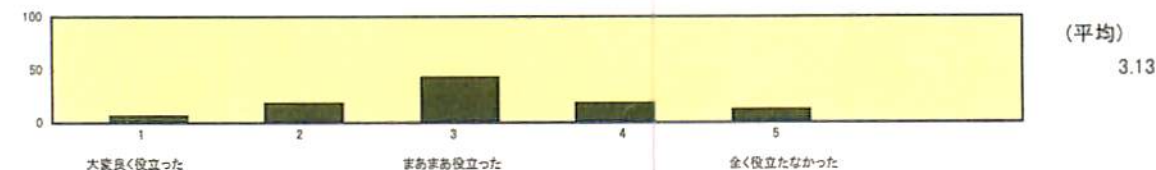
(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)



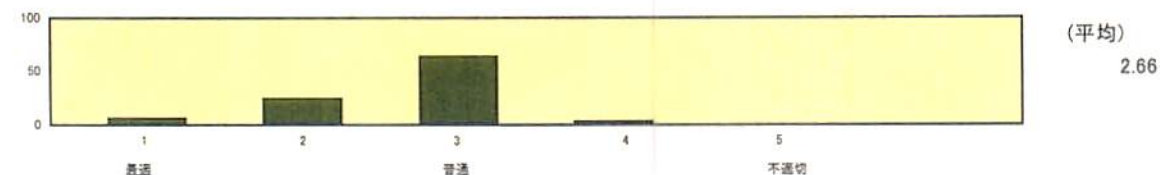
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)



(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)



時間割コード	T8214
科目名	材料物理化学I
学科名	マテリアル工学科
担当教員	田代 優
カード枚数	33 枚
処理日時	2009/9/30

回答データ

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	14	3	5	4	7	0
2	1	6	13	10	2	1	0
3	2	3	8	19	0	1	0
4	2	1	8	14	8	0	0
5	5	17	2	4	1	4	2
6	1	2	6	14	6	4	0
7	1	2	8	21	1	0	0

回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	42.4	9.1	15.2	12.1	21.2	
2	3	18.2	39.4	30.3	6.1	3	
3	6.1	9.1	24.2	57.6	0	3	
4	6.1	3	24.2	42.4	24.2	0	
5	15.2	51.5	6.1	12.1	3	12.1	6.1
6	3	6.1	18.2	42.4	18.2	12.1	
7	3	6.1	24.2	63.6	3	0	

科目一覧(シラバス)

時間割コード	科目名	学科名	担当教員
T8214	材料物理化学I	マテリアル工学科	田代 優

09(H21)前期／マテリアル工学科／教育点検(FD)会議

マテリアルFD会議 080930 (水)

授業担当教員による自己点検・自己評価票／科目別

1	授業科目名	材料力学
2	時間割コード	T8218
3	氏名	西野創一郎
4	シラバス概要と到達目標	【概要】 構造設計（材料力学）と材料選定を軸とした機械設計について講義を行う。大学で学んだ学問と現場の機械設計をリンクさせるために、設計事例などを使った実践的な演習を実施する。 【到達目標】 大学で学んだ学問が、現場の機械設計でどのように生かされているか理解させること
5	授業の評価と成績分布	レポートと試験 A+ 11人 (19.6%) A 7人 (12.5%) B 14人 (25.0%) C 6人 (10.7%) D 14人 (25.0%) E 4人 (7.1%)
6	アンケート実施結果の解析	(1) 得るところが多かったか 2.02 (昨年度 1.98) (3) 理解度 2.67 (昨年度 2.55) 評価は後退したが上位成績者の数が昨年度より増えたので一定の効果はあったと考えている
7	この授業の優点と改善点	基礎公式の解説で進度が速かったので応用例との講義時間のバランスを考えて、更なる理解度をを目指す
8	その他ご意見	本科目は、材料強度物性学分野における専門基礎科目であり、必修に指定されている重要科目である。力学をベースに、物体の変形解析や構造部材の剛性解析について講義を実施した。成績分布から、学科の目標／カリキュラムの中での授業達成度は十分であると考えている。

[授業評価のトップページへ](#)

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8218 材料力学

Go

Reset

 →→→ 編集する ←←←

記入日	平成 21 年 9 月 24 日		
授業科目名	材料力学	(1 単独 2 分担)	1
担当教員名 (全員)	西野創一郎	記入者名	
前後期別 (1前期 2 後期)			1
必修/選択 (1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)			1
授業形態 (1 講義 2 実験・実習 3 演習)			1

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスは[ガイドライン](#)に従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進捗したか

1 進捗した 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行なったか

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	1
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	1
	レポート	1
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	62
Q2. 取止者数	3
Q3. 欠試者数	3
Q4. 受験者数	56
Q5. 不合格者数	4

Q6. 成績分布

A+	19.6 %	11 人
A	12.5 %	7 人
B	25.0 %	14 人
C	10.7 %	6 人
D	25.0 %	14 人
E	7.1 %	4 人
合計	100 %	56 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された 2 ほぼ達成された 3 達成されていない	1
理由	不合格者は62人中4人であり、B以上が受講者の半数を越えているため

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

理解度が不足している学生が多かったので、演習に加えて宿題を出して解説に時間をかけることで理解度を深めるようにした。

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

実施しなかった。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1.Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

単位を落とす学生は減ったが平均点はあまり向上していないので、更なる理解度の向上を目指す。

Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

ポイントを絞って時間をかけて丁寧に説明する。演習問題を増やして理解度を高める。

Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

- ・声を大きく（マイクを使って）講義を実施する。
- ・板書の文字を大きく書く。

時間割コード	T8218
科目名	材料力学
学科名	マテリアル工学科
担当教員	西野 創一郎
カード枚数	42 枚
処理日時	2009/8/10

回答データ

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	2	0	11	19	10	0
2	0	9	23	10	0	0	0
3	0	1	8	33	0	0	0
4	0	2	13	24	3	0	0
5	6	22	0	4	2	1	7
6	0	0	4	22	12	4	0
7	1	6	16	18	1	0	0

回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	4.8	0	26.2	45.2	23.8	
2	0	21.4	54.8	23.8	0	0	
3	0	2.4	19	78.6	0	0	
4	0	4.8	31	57.1	7.1	0	
5	14.3	52.4	0	9.5	4.8	2.4	16.7
6	0	0	9.5	52.4	28.6	9.5	
7	2.4	14.3	38.1	42.9	2.4	0	

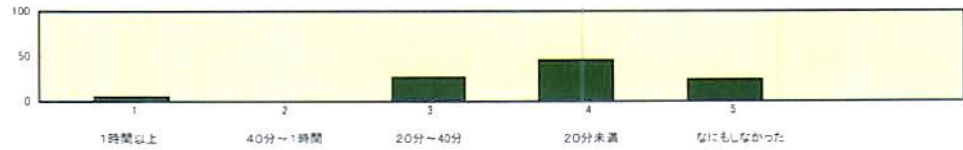
科目一覧(シラバス)

時間割コード	科目名	学科名	担当教員
T8218	材料力学	マテリアル工学科	西野 創一郎

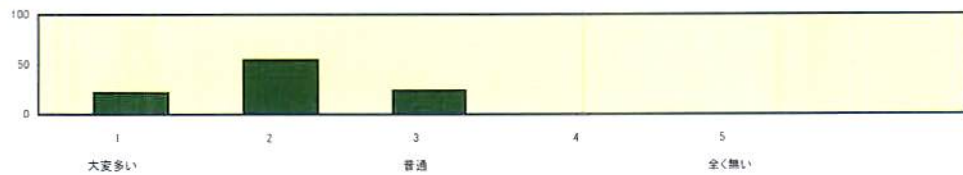
回答数: 42

処理: 2009/8/10

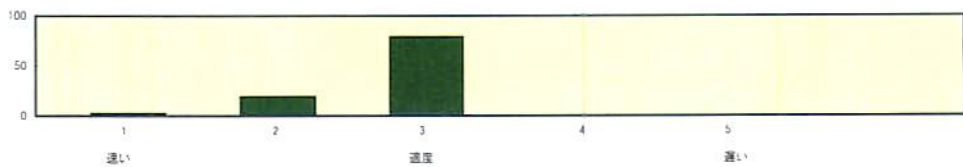
(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)

(平均)
3.83

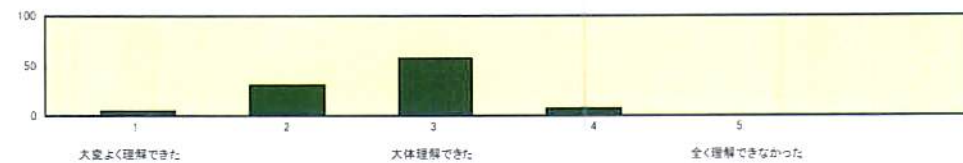
(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)

(平均)
2.02

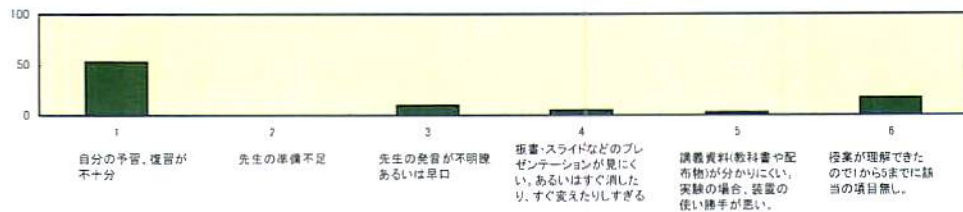
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)

(平均)
2.76

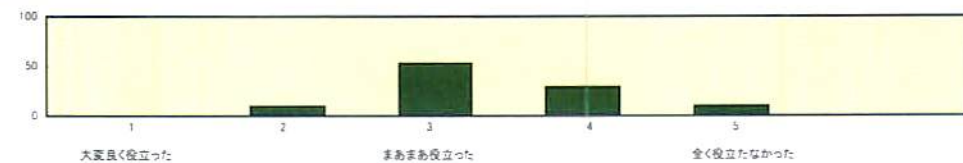
(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)

(平均)
2.67

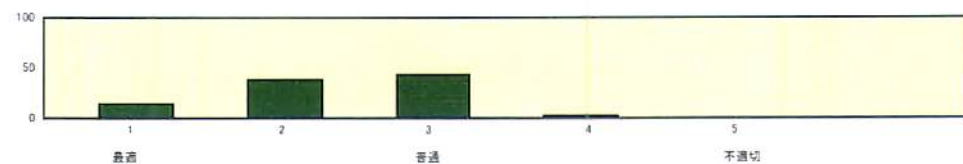
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)

(平均)
3.38

(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)

(平均)
2.34

様式2 (授業担当教員用)

平成 21 年度 (前 期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日: 21 年 4 月 26 日

学 科	2771 工学部	授業科目	材料力学		
担当教員	西野 創一郎	受講学生数	62 名 (学期終了後に記入)		
担当 TA (全員の氏名)	重松 史明	時間数	16 時間		
オリエンテーションの実施内容	実施日時	オリエンテーションの内容			
	4/1(水)	講義スケジュールの確認 業務内容の指導			
授業内容 とそれに対する TA の業務 内容	出欠確認 と 演習 の 回収				
TA 実施による 成果・意見・ 感想・要望	次年度も希望致します				

記入方法

- 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

様式 1 (TA 学生用)

平成 21 年度 (前 期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日: 21 年 8 月 26 日

報告書作成者	応用粒子線科学専攻	学生番号 08NM008T	氏名 重松 史明
担当授業	マテリアルエ 学科 2 年対象 科目名: 材料力学		
授業の担当教員名	西野 創一郎		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。	出欠の確認 演習の回収		
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例: 事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)	特になし		
3. TA 業務を行って新たに得られたこと(知識や有用な経験など)を記入してください。	特になし		
4. その他、感想など自由に記入してください。	特になし		

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

[授業評価のトップページへ](#)

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8221 マテリアル実験I

Go

Reset

→→→ 編集する ←←←

記入日	平成 21 年 9 月 11 日		
授業科目名	マテリアル実験I	(1 単独 2 分担)	2
担当教員名 (全員)	マテリアル工学科教員	記入者名	横田仁志
前後期別 (1 前期 2 後期)	1		
必修/選択 (1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)	1		
授業形態 (1 講義 2 実験・実習 3 演習)	2		

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスはガイドラインに従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進化したか

1 進化した 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行ったか

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	1
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	1
	レポート	1
	試験	0
	模範解答	0
	答案	0

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	54
Q2. 取止者数	2
Q3. 欠試者数	3
Q4. 受験者数	49
Q5. 不合格者数	7

Q6. 成績分布

A+	73.4 %	36 人
A	14.2 %	7 人
B	8.1 %	4 人
C	0.0 %	0 人
D	0.0 %	0 人
E	4.0 %	2 人
合計	100 %	49 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された 2 ほぼ達成された 3 達成されていない	2
理由	途中であきらめた学生が若干名居るから。

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

マテリアル実験1,2,3全体を通じて、内容の見直しを検討し、実験全体で内容を縮小するなどして学生の理解度を向上させる。

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

「1. あなたはこの授業に興味を持って取り組んでいますか?」の設問に対しては、「非常に興味がある」(11%)と「やや興味がある」(56%)の割合が約67%と高いことが分かった。これはガイダンスや授業の導入部で将来どのようなシーンで製図が役に立つかを繰り返し紹介することで講義や実習への動機付けがうまく行ったと思われる。 「2. この授業は自分のためになると思いますか?」の設問に対しては、「大変ためになる」(44%)と「ややためになる」(42%)の割合が約86%と高く学生のこの講義や実習への満足度が高いことが分かった。
--

「3. この授業はよく準備されていますか?」の設問に対しては、「大変準備されている」(9%)と「よく準備されている」(49%)の割合が約58%で残りは42%が普通と評価していることが分かった。講義ではパワーポイントを活用しているために比較的評価が良いように思われる。

「4. 授業の進度はどうですか?」の設問に対しては、84%の受講生が普通と回答している。遅いと回答している者はいなく、ほぼ適切であったと考えられる。

「5. 演習の時間は充分でしたか?」の設問に対しては、「大変適切」(13%)と「まあまあ適切」(56%)の割合が69%となり、例年指摘されていた演習時間が足りないとの指摘が改善した。しかし、足りないと感じる受講生もまだ10%ぐらい存在することが分かった。

「6. 先生の指導は適切だったと思いますか?」の設問に対しては、「大変適切」(22%)と「まあまあ適切」(47%)の割合が69%であることが分かり、残りの受講生は「普通」(31%)評価した。

ガイダンスや授業の導入部で製図に対する学修の動機付けがうまく行った結果、受講生が興味を持って講義・実習に取り組んでいることが受講生の満足度に反映していることが考えられる。また、講義よりも実習に力点を置いた講義進行へ変更したために進度についての評価も改善が見られた。

改善策

1. 講義の理解度を高めるために実際の“もの”を見せながら講義を進めるなど更なる工夫をする予定である。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

(1)2.61、(2)2.36、(3)2.64、(4)2.94、(5)「自分の予習、復習が不十分」がほとんど、(6)3.06、(7)2.66、となった。
昨年度は(3)進度については2.45であったので、若干改善されたと言える。

Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

マテリアル実験1の内容は、来年度改訂が決定している。

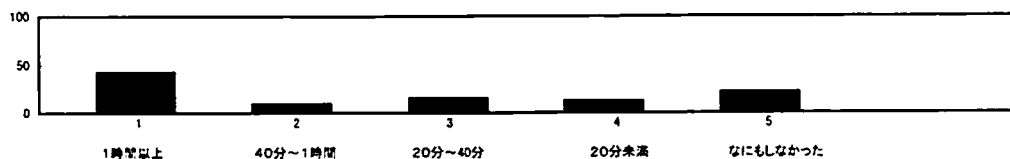
Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

今まで通り、手の空く学生が居ないように作業を分担させている。

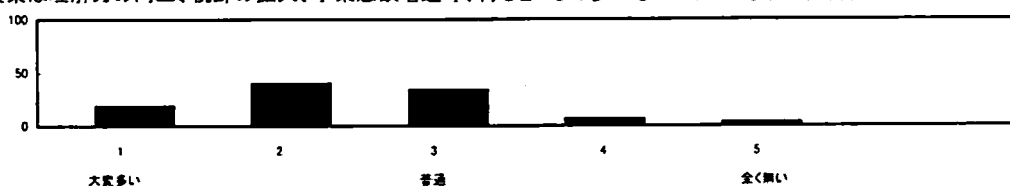
回答数: 33

処理: 2009/8/10

(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)

(平均)
2.61

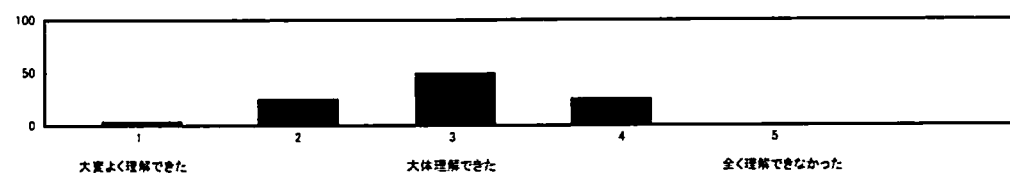
(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)

(平均)
2.36

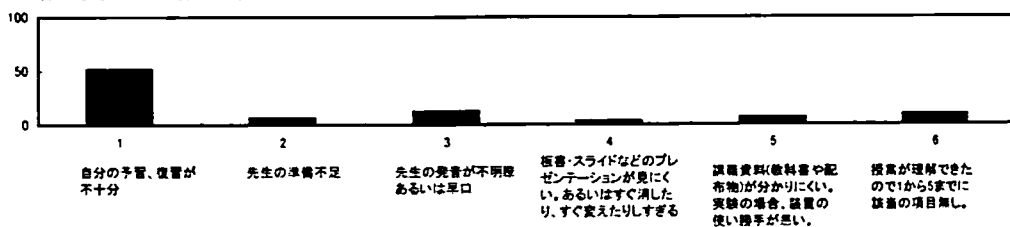
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)

(平均)
2.64

(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)

(平均)
2.94

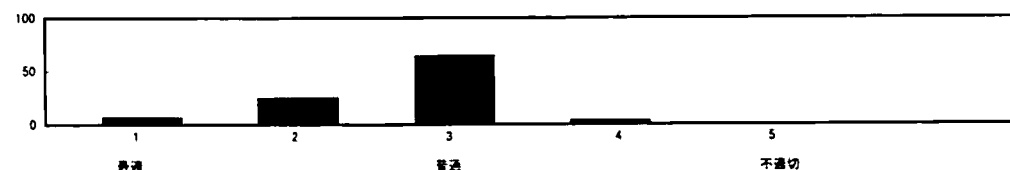
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)

(平均)
3.06

(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)

(平均)
2.66

時間割コード	T8221
科目名	マテリアル実験I
学科名	マテリアル工学科
担当教員	マテリアル工学科教員
カード枚数	33 枚
処理日時	2009/8/10

回答データ

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	14	3	5	4	7	0
2	0	6	13	11	2	1	0
3	0	3	8	21	0	1	0
4	0	1	8	16	8	0	0
5	4	17	2	4	1	2	3
6	0	3	6	14	6	4	0
7	1	2	8	21	1	0	0

回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	42.4	9.1	15.2	12.1	21.2	
2	0	18.2	39.4	33.3	6.1	3	
3	0	9.1	24.2	63.6	0	3	
4	0	3	24.2	48.5	24.2	0	
5	12.1	51.5	6.1	12.1	3	6.1	9.1
6	0	9.1	18.2	42.4	18.2	12.1	
7	3	6.1	24.2	63.6	3	0	

科目一覧(シラバス)

時間割コード	科目名	学科名	担当教員
T8221	マテリアル実験I	マテリアル工学科	マテリアル工学科教員

様式2 (授業担当教員用)

平成21年度(前期)ティーチング・アシスタント(TA)実施報告書

報告書作成日: 2009年 8月 28日

学 科	マテリアル工学科	授業科目	マテリアル実験		
担当教員	横田仁志	受講学生数	44名(学期終了後に記入)		
担当 TA (全員の氏名)	有川智 井口将俊 長山瞬	時間数	27 時間 27 時間 27 時間		
オリエンテーションの実施内容	実施日時 6月10日	オリエンテーションの内容 1. 実験スケジュールの説明 2. TA担当業務の説明 3. 安全上の注意			
授業内容と それに対する TA の業務 内容	機械製図6週、電気化学実験3週、力学的特性実験3週実施することで、機械製品等の構造を的確に表現・伝達する機械製図について、標準機械製図法の初歩を理解し、製図法に則った図面が書け図面情報を読めるよう基礎を学習し、様々な実験の手法、実験器具の取り扱い方と実験データの整理方法やレポートの作成方法について習得する。TAは力学的特性実験の補助を担当した。				
TA 実施に よる成果・ 意見・感 想・要望	担当教職員2名で分担している実験に対し TA による補助を加えることで、学部生への指導を円滑にすることができたと思う。また、TA は人に教えることの意味を理解することができて修士学生への教育効果も期待できる。 マテリアル工学科は授業担当教員の数も少なく、非常勤講師の時間数も少ないので、必然的に授業担当教員の負担が増している。TA でそれを少しでも補えるのは助かるが、授業担当教員の数の少ない学科には非常勤講師の時間数を増やす、TA の時間数を増やすなどの配慮が欲しい。				

記入方法

- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

様式1 (TA学生用)

平成 2 / 年度 (前 期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日: 2009 年 8 月 3 / 日

報告書作成者	応用光子線科学専攻	学生番号 09NM0025	氏名 井口 将利
担当授業	マテリアル工 学科 2 年対象 科目名: マテリアル実験 I		
授業の担当教員名	横田 仁志, 鈴木 徹也		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。	実験装置の説明, 指導		
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例: 事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)	思ったよりも人の話を聞いていない人が多かったため、操作上危険なところは何度も言うようにした。学生さんから操作するとても危険なところは常に注意を払った。		
3. TA 業務を行って新たに得られたこと (知識や有用な経験など) を記入してください。	人にわかりやすく教える難しさを実感した。自分でわかっていても人に教えられないし、トラブルにも対応できない。		
4. その他、感想など自由に記入してください。	TA の仕事も良い経験になったが、普段からあんなことのない 2 年生と接する機会ができて良い刺激になった。		

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、 _____ に提出してください。提出締切は 月 日とします。

様式 1 (T A 学生用)

平成 21 年度 (前期) ティーチング・アシスタント (T A) 実施報告書

報告書作成日: 2009 年 8 月 28 日

報告書作成者	応用粒子線科学専攻	学生番号 09NM007H	氏名 長山 瞬 
担当授業	マテリアル工学科 2 年対象 科目名: マテリアル実験 I		
授業の担当教員名	鈴木 徹也		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。	放電加工機、引張試験機の使用法。引張試験片研磨、寸法測定の指導。		
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例: 事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)	学生は見ている時間が多くなってしまっていたので、学生が放電加工機や引張試験機に触れる時間をもう少し取れたら良いと思う。		
3. TA 業務を行って新たに得られたこと (知識や有用な経験など) を記入してください。	TA をするにあたり、放電加工機と引張試験機の使い方を習い、一人で使えるようになった。		
4. その他、感想など自由に記入してください。	初めての TA でしたが 2 年生ともコミュニケーションが取れ、楽しめました。		

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

エコマテリアル 担当者 友田 陽

3 年前期選択必修・講義

学習内容の区分＝専門分野(3) 22.5 時間

学習目標＝(A) ◎、(D) ◎、(G) ○

A. 人と地球を考慮したマテリアル工学技術について考える能力の修得

D. マテリアル工学の専門知識とその応用能力の修得

G. 自主的、継続的に学習する能力の修得

学習目標 (A) については、地球上で採掘可能な資源量に関して、クラーク数からスタートし、資源の存在状態、埋蔵量、鉱石量、耐用年数、国内および世界のマテリアルフローとリサイクルに関して、地球物理学、資源経済学、材料工学的観点から考察し、京都議定書や洞爺湖サミット等を通して、世界人口と地球環境、持続可能な社会に果たす材料工学の発展について考えてもらった。優れた材料の開発が必ずしも好ましいとは限らないことを認識して、マテリアル工学の勉学・研究を進めることを推奨した。学生は自動車リサイクル法と自動車ライフサイクルアセスメント (LCA) の課題研究等で理解を深めたと思う。

学習目標 (D) については、材料のマテリアルフローとその障害を考える中で、金属、セラミックスおよびプラスチックの製造方法、使用上のメリット・デメリット、リサイクル技術を勉強する過程で、工業材料に関する全体観と個々の材料問題について考えてくれたと思う。個々の課題を掘り下げるとは他の授業にお願いすることにして、この授業では、複合材料を含めて、工業材料全体を把握することに力点を置いた。そして、マスコミ報道などの社会問題を、材料工学の専門知識を持って考えることにより、専門科目を深く勉強する動機となることをねらった。授業アンケートを見る限り、かなり達成していると思われる。

学習目標 (G) については、授業で要点のみを紹介する資料を配布して、授業後に読んでもらう、あるいはレポート課題について自分で調査してまとめることを繰り返した。LCA の実施状況やマテリアルフローの現状調査課題は、かなり長時間のネット検索が必要になるため、自宅に端末を持っていない学生からはクレームが出た。参考資料として授業に関係のある新聞記事を配布したが、授業後に興味を持って読んだという学生が多かった。

学科の教育目標／授業のカリキュラムでの位置づけに照らした授業達成： 地球環境を維持し人類の共存共栄を求める上で、材料の高機能化とその製造・使用・再生が鍵であることを認識させる。そして、多くの課題解決のために材料工学の基礎を学ぶ重要性を知り、主体的に知識を深めることに役立ったと思う。

[授業評価のトップページへ](#)

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8226 エコマテリアル

Go

Reset

→→→ [編集する](#) ←←←

記入日	平成 21 年 9 月 6 日		
授業科目名	エコマテリアル	(1 単独 2 分担)	1
担当教員名(全員)	友田 陽	記入者名	友田 陽
前後期別(1前期 2後期)			
必修/選択(1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)			
授業形態(1 講義 2 実験・実習 3 演習)			

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスは[ガイドライン](#)に従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進捗したか

1 進捗した 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行ったか

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	1
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	1
	レポート	0
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	39
Q2. 取止者数	0
Q3. 欠試者数	3
Q4. 受験者数	36
Q5. 不合格者数	2

Q6. 成績分布

A+	13.8 %	5 人
A	19.4 %	7 人
B	36.1 %	13 人
C	19.4 %	7 人
D	5.5 %	2 人

E	5.5 %	2 人
合計	100 %	36 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された 2 ほぼ達成された 3 達成されていない	2
理由	アンケート結果によると、「得るところが多かったか？」の設問2の評価が1.96(昨年度は1.8)であった。

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

改善すべき大きな課題は指摘されていない。授業の目的から、できるだけ最新のデータ入手して、新聞記事報道なども加えて、現実感の湧く資料を配布するようにした。

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

このままで良いという意見が多かった中で、個々の要望はいろいろあった。一人の学生の意見で変更することはないと思うが、配布資料や板書の改善に気をつけるようにした。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

アンケートによると速度2.84(昨年度: 2.76)で少し速すぎの評価。理解度は2.64(昨年度: 2.51)で少し改善された。かなりの学生が課題に興味を持って取り組んだようである。課題としては、後半になるにつれて机にうつぶせになって寝ようとする学生が出てきたことである。集中を続けさせる工夫が必要。

Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

授業準備をさらに充実させ、ポイントは2度説明するなど進め方を改善する。

Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

毎回のショートクイズは出題採点が面倒ではあるが、毎回の授業の理解度を確認するのに役立ち、一方向授業を避けるためにも続けようと思う。新聞報道等も適時紹介して、興味を持たせるようにしたい。著書の一部が、大学入試(小論文)や国立国語研究所(ことのは)で利用されたことを紹介し、本授業課題の認識の広がりを強調しようと思う。

時間割コード	T8226
科目名	エコマテリアル
学科名	マテリアル工学科
担当教員	友田 陽
カード枚数	25 枚
処理日時	2009/8/10

回答データ

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	0	3	6	7	9	0
2	0	8	10	7	0	0	0
3	0	0	4	21	0	0	0
4	0	2	6	16	1	0	0
5	3	9	1	0	2	0	10
6	0	5	2	14	1	2	1
7	0	6	8	9	2	0	0

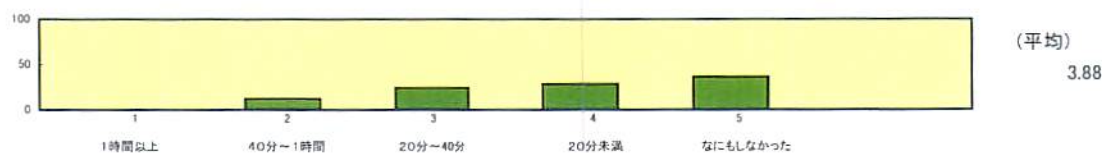
回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	0	12	24	28	36	
2	0	32	40	28	0	0	
3	0	0	16	84	0	0	
4	0	8	24	64	4	0	
5	12	36	4	0	8	0	40
6	0	20	8	56	4	8	
7	0	24	32	36	8	0	

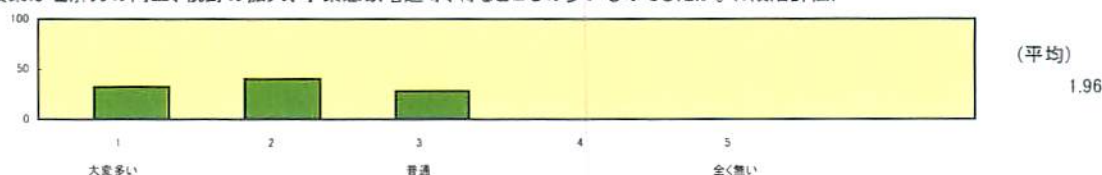
科目一覧(シラバス)

時間割コード	科目名	学科名	担当教員
T8226	エコマテリアル	マテリアル工学科	友田 陽

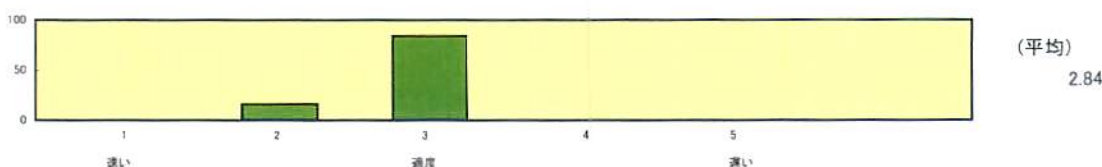
(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)



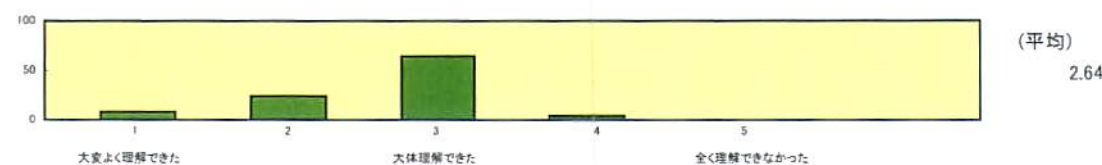
(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)



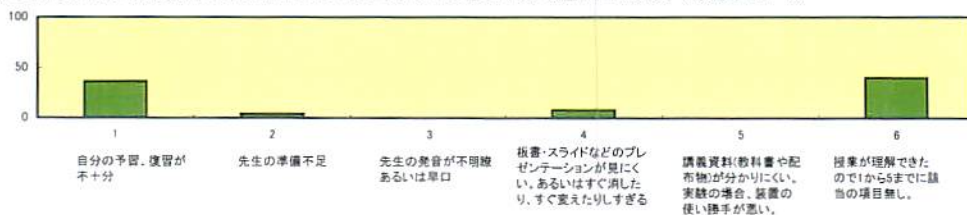
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)



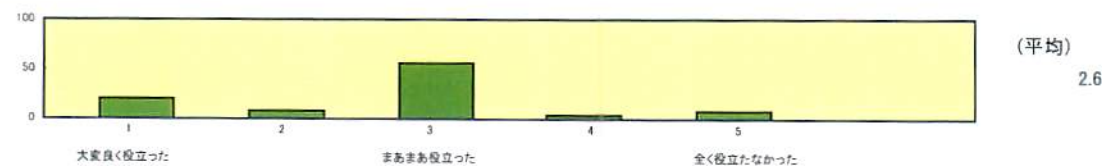
(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)



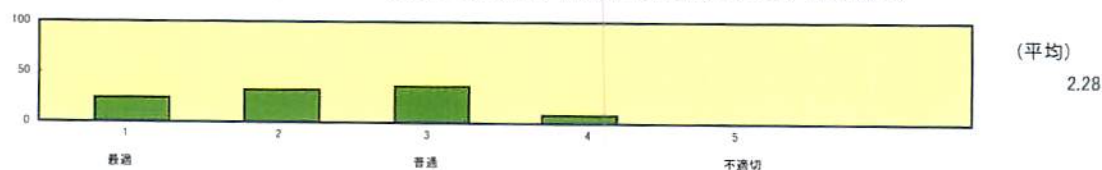
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)



(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)



平成 21 年 9 月 30 日 小檜山 守

表面・界面工学 担当者 小檜山守

3 年前期選択・講義

学習内容の区分＝専門

学習目標＝(D1) ◎, (G) ○

D1. マテリアルの構造、性質に関する基本の理解

G. 自主的、継続的に学習する能力の修得

学習目標

(D1) のマテリアル工学の構造および性質にかんについては、成績の結果 (A+:11.1% ,A:16.6%, B:36.1%, C::13%, D:2.7%, E:2.7%)から、65%が B 以上評価を得ており、マテリアル工学の構造、性質に関する理解については、十分に達成できたと見ることができる。

学習目標 (G)

については、最終アンケートの結果から殆どの聴講生が予習および復習時間を設けていないことが分かった。資料の検索、レポートおよび問題等の課題を課すよるする。

FD 研修会において、聴講生が予習および復習をさせる方策が必要であることの指摘を受けた。レポートや課題の成績へ反映等も良い方法であると意見が出された。また、講義中に演習問題を解き、それに関連したレポート提出も復習に効果的である意見もあった。これらを遂行するためには、時間的な負担増や煩雑さの問題があり、TA の弾力的な運用等を考える必要がある。

[授業評価のトップページへ](#)

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8228 表面・界面工学

Go

Reset

→→→ 編集する ←←←

記入日	平成 21 年 9 月 28 日		
授業科目名	表面・界面工学	(1 単独 2 分担)	1
担当教員名(全員)	小檜山守	記入者名	小檜山守
前後期別 (1前期 2 後期)	1		
必修／選択 (1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)	3		
授業形態 (1 講義 2 実験・実習 3 演習)	1		

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスはガイドラインに従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進捗したか

1 進捗した 2 少し異なった 3 かなり異なった	2
異なった理由	聴講生の理解度を確認しながら進めたため、講義内容が遅れ気味になった。

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行ったか

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	1
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	2
	レポート	2
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	43
Q2. 取止者数	7
Q3. 欠試者数	0
Q4. 受験者数	36
Q5. 不合格者数	1

Q6. 成績分布

A+	11.1 %	4 人
A	16.6 %	6 人
B	36.1 %	13 人
C		

	19.4 %	7 人
D	13.8 %	5 人
E	2.7 %	1 人
合計	100 %	36 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された 2 ほぼ達成された 3 達成されていない

1

理由

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

この講義はマテリアルの基礎的な知識がないと理解が困難な分野なので、昨年度と比べ基礎的な部分に重点置き、分かりやすい内容にした。さらに、トピック的な内容の入れ、興味を持たすようにした

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

昨年度と同様に、講義内容の資料の配付の希望があつた。今までの講義で用いた材料に関する教科書を復習するよう指導した。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

昨年度のアンケートの結果を参考にして、講義の内容を基礎を重視した。昨年度と比べて成績はA+:11.1 % A:16.6 % B:36.1 % C:19.4 % D:13.8 % E:2.7 %となった。

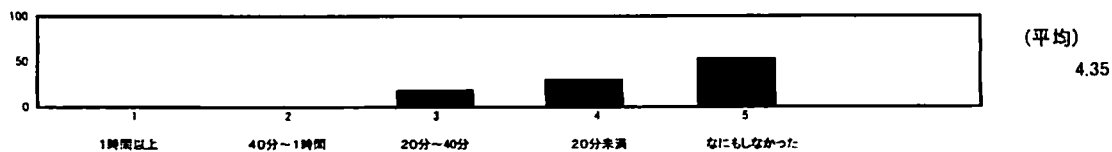
Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

基本的な内容はあらかじめ、聴講生自ら復習するように指導する必要がある。

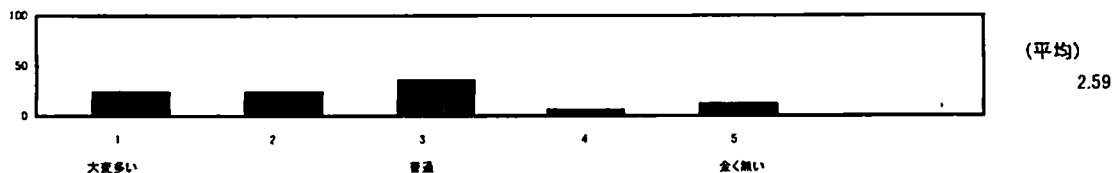
Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

特になし。

(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)



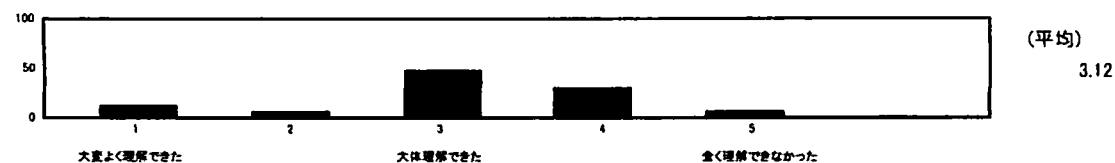
(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)



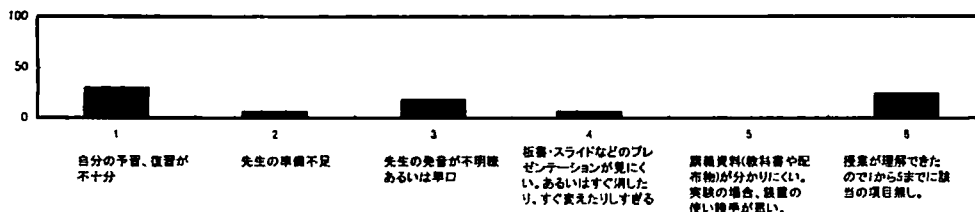
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)



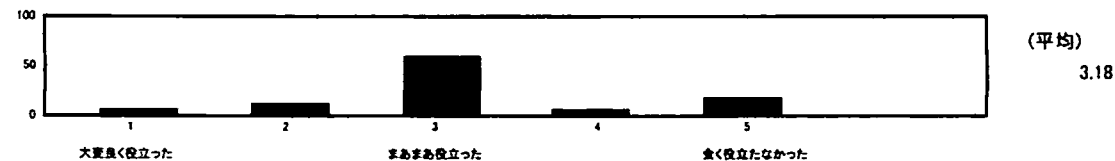
(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)



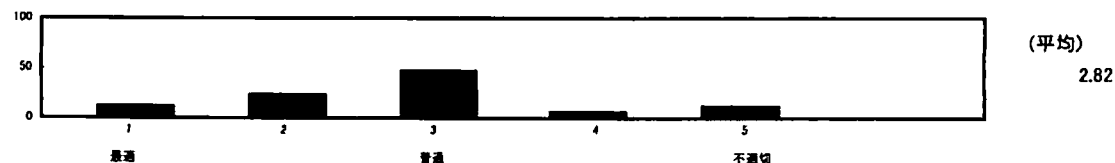
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)



(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)



時間割コード	T8228
科目名	表面・界面工学
学科名	マテリアル工学科
担当教員	小檜山 守
カード枚数	17 枚
処理日時	2009/8/10

回答データ

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	0	0	3	5	9	0
2	0	4	4	6	1	2	0
3	0	0	5	10	2	0	0
4	0	2	1	8	5	1	0
5	3	5	1	3	1	0	4
6	0	1	2	10	1	3	0
7	0	2	4	8	1	2	0

回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	0	0	17.6	29.4	52.9	
2	0	23.5	23.5	35.3	5.9	11.8	
3	0	0	29.4	58.8	11.8	0	
4	0	11.8	5.9	47.1	29.4	5.9	
5	17.6	29.4	5.9	17.6	5.9	0	23.5
6	0	5.9	11.8	58.8	5.9	17.6	
7	0	11.8	23.5	47.1	5.9	11.8	

科目一覧(シラバス)

時間割コード	科目名	学科名	担当教員
T8228	表面・界面工学	マテリアル工学科	小檜山 守

授業科目名 材料組織学演習 分担 担当教員名 田代優・永野隆敏

前期 必修 演習

成績と達成度 履修者数 47 取止者数 4 欠試者数 0 受験者数 43 不合格者数 7

成績分布 A+ 4.6 % 2 人 A 25.5 % 11 人 B 34.8 % 15 人 C 9.3 % 4 人 D 9.3 % 4 人 E 16.2 % 7 人 合計 100 % 43 人

点検結果と改善

問題点

1. アンケート回答者の約 35%が復習を全くしていない。

対策

勉強の習慣が無い学生とある学生に二極化している。

習慣が無い学生が 35%を占め、復習をしているかノートチェックをしなければならない・・・全く情けない状態である。

・同じ問題を出しても、さっぱり答えていない（間違えるのではなく、白紙）学生が少なからずいた。問題によって、あきらめている様子である。

改善

演習問題をわざと同じ問題を繰り返し出すようにした。それでも正解率が悪いのは、欠席が多く、また、欠席してもそのときの問題を自分からやらない学生が多かったためである。さすがに、普段の演習で繰り返し同様の問題を行ったこともあり、テスト形式で行った最終評価はまずまずであった。

学科の教育目標／授業のカリキュラムでの位置づけに照らした授業達成度の点検

(D) -1.マテリアルの構造・性質に関する基本理解

(E) 問題解決のための種々の情報や科学技術に関する知識を総合判断できる能力の修得

(G) 自主的、継続的に学習する能力の修得

以上三項目がこの授業に対する学科の教育目標／授業のカリキュラムでの位置づけである。(D) -1.マテリアルの構造・性質に関する基本理解については、熱平衡、自由エネルギー、状態図、相平衡、熱活性化過程、拡散、核生成凝固、コアリングおよび腐食について講義が行われた材料組織学入門の演習科目という位置付けであるため十分達成されていると考える。(E) 問題解決のための種々の情報や科学技術に関する知識を総合判断できる能力の修得については、演習中に演習問題で取り上げた現象は「常識的な物理現象」であることを強調し、非科学的な解答をしないよう吟味することを指導しており、これにより知識を総合判断できる能力が達成できていると考える。(G) 自主的、継続的に学習する能力の修得については、アンケート調査の結果、復習している受講生の割合が低く達成されていないと評価した。この点については、即効性のある具体的改善策が見当たらず、入学時からの学生への啓蒙活動が必要と考える。

FD における改善等の議論

受講生の学習時間が JABEE の謳う学習保証時間に遥かに達していないことがアンケートから明らかとなった。この点について議論をしたが、即効性のある具体的改善策が見当たらず、入学時からの学生への啓蒙活動が必要との結論に至った。具体的な対処行動については、ノートのとり方の講義、ノートチェック等の実施が挙げられるが、さらに議論が必要との結論に至った。

以上

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8214 材料物理化学I

Go

Reset

→→→ [編集する](#) ←←←

記入日	平成 21 年 9 月 25 日		
授業科目名	材料物理化学I	(1 単独 2 分担)	1
担当教員名(全員)	田代優	記入者名	田代優
前後期別 (1前期 2 後期)			1
必修/選択 (1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)			1
授業形態 (1 講義 2 実験・実習 3 演習)			1

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスは[ガイドライン](#)に従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進めたか

1 進めた 2 少し異なった 3 かなり異なった	2
異なった理由	1.教科書の内容のほかに重要と思われる項目を補足したため 2. 宿題の出来具合で授業進度を落としたため

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行ったか

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	1
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	1
	レポート	1
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	64
Q2. 取止者数	7
Q3. 欠試者数	0
Q4. 受験者数	58
Q5. 不合格者数	10

Q6. 成績分布

A+	7.0 %	4 人
A	3.5 %	2 人
B	17.5 %	10 人
C	24.5 %	14 人
D	29.8 %	17 人
E	17.5 %	10 人
合計	100 %	57 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された 2 ほぼ達成された 3 達成されていない	2
理由	受験者の82%が合格し、

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

1. 復習の重要性をガイダンス時に説明
2. 中間試験の実施(最終試験の範囲が広いので)
3. テスト実施時に持ち込み可能な用紙を配布して要点の整理をさせ、これもテストと同時に回収して評価の一部に使う。(検討中)

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

問題点

1. 復習を全くしない受講生が6割に上ることが明らかとなった。
2. 授業進度が「やや速い」と訴える学生が多いことが分かった。

改善策

1. 宿題をほぼ毎回出しているが、授業前に慌てて友人のレポートを写している始末である。毎回復習することを繰り返し説諭することとした。
2. 授業進度を犠牲にして理解を深める方向へ方針を転換した。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

Q1の1はガイダンス時に強調したが、中間アンケートでは効果があまり見られなかった。しかし、最終アンケートでは幾分改善していることが分かった。
Q1の2については、授業進捗との関係から中間試験の時間が確保できず断念した。
Q1の3は今年より実施し、広範囲にわたるテストの復習となったと考えられる。
Q2の1については最終アンケートで改善が見られ、毎回の説諭の効果を感じた。
Q2の2については最終アンケートでは普通と回答するものが増え改善が見られた。

問題点

1. 授業進度を落としたため、シラバスで予定していた最終章を説明出来なかった。
2. 大体理解できたと評価するものが多く、これが成績評価の「C」、「D」に相当することが分かった。(成績分布と似ている)
3. 授業の復習が不足している

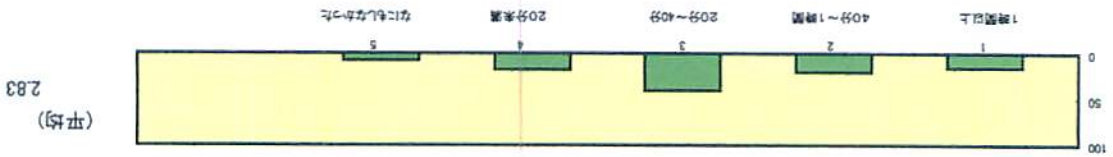
Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

1. 講義内容の精選を図り、重要項目を絞って講義を行いたいと考える。しかし、復習をしない受講生が説明しなかった部分を自習するか心配である
2. 理解度をチェックするために授業の終わりに小テスト実施したいと考えるが、講義範囲が広く実施は難しいと思われる。
3. 教科書を講義受講後に必ず一度読むように指導する。

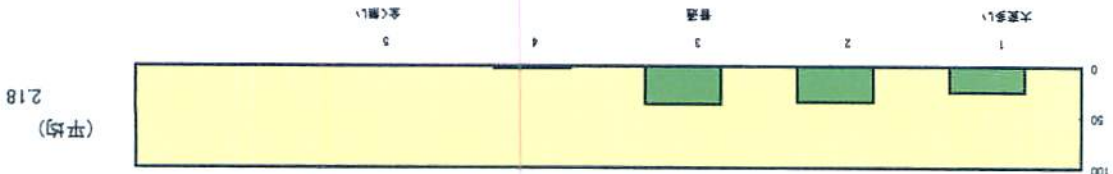
Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

なし

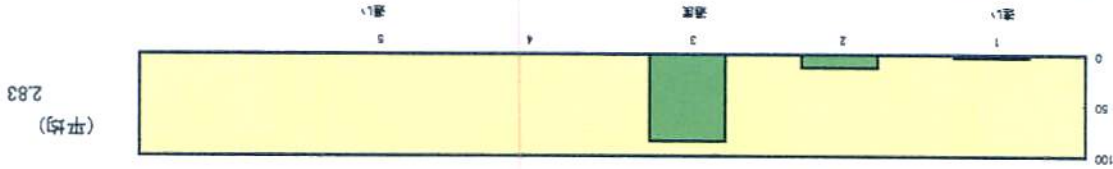
(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)



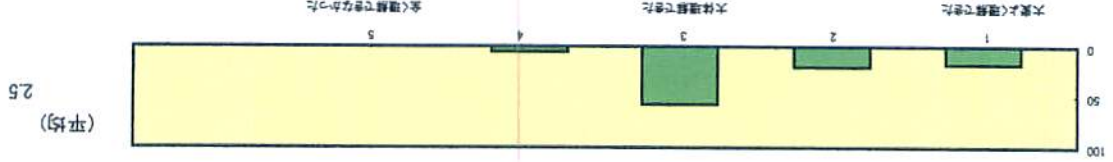
(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)



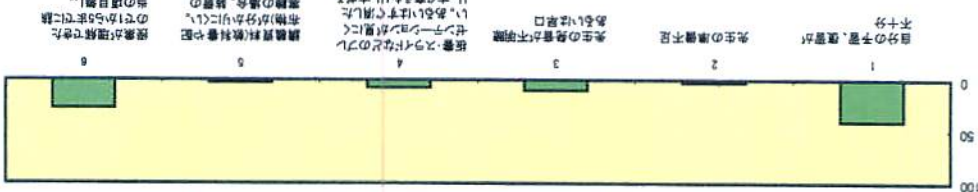
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)



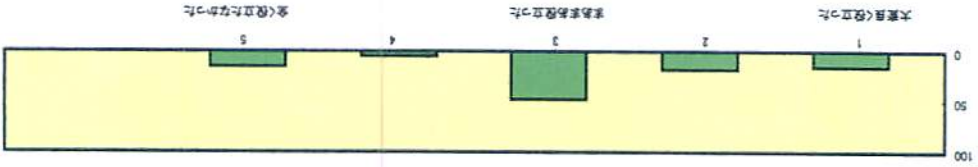
(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)



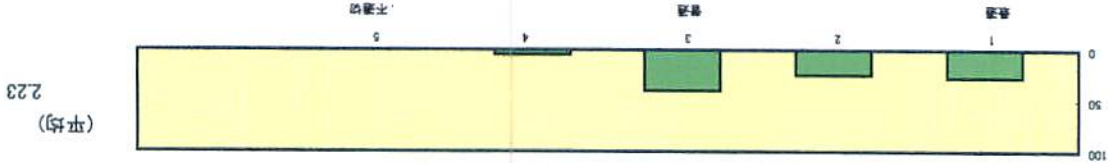
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)



(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)



回答データ

時間割コード	T8229
科目名	材料組織学演習
学科名	マテリアル工学科
担当教員	田代 優・永野 隆敏
力一ド枚数	40 枚
処理日時	2009/8/10

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	6	8	16	7	3	0
2	0	10	14	15	1	0	0
3	0	1	5	34	0	0	0
4	0	7	8	23	2	0	0
5	4	16	1	4	3	1	11
6	0	6	7	19	2	6	0
7	1	11	10	16	2	0	0

回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	15	20	40	17.5	7.5	
2	0	25	35	37.5	2.5	0	
3	0	2.5	12.5	85	0	0	
4	0	17.5	20	57.5	5	0	
5	10	40	2.5	10	7.5	2.5	27.5
6	0	15	17.5	47.5	5	15	
7	2.5	27.5	25	40	5	0	

科目一覧(シラバス)

時間割コード	T8229
科目名	材料組織学演習
学科名	マテリアル工学科
担当教員	田代 優・永野 隆敏

様式 2 (授業担当教員用)

平成 21 年度 (前期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日 : 09 年 8 月 31 日

学 科	マテリアル	授業科目	材料組織学演習		
担当教員	田代 優 (永野隆敏) 印	受講学生数	50 名 (学期終了後に記入)		
担当 TA (全員の氏名)	叶野 翔	時間数	17		
オリエンテーションの実施内容	実施日時	オリエンテーションの内容			
	09 年 4 月 5 日から 09 年 7 月 28 日	TA の業務内容は提出された演習課題の採点であることを説明した。 演習問題と解答例を配布し、採点方法、基準、採点結果の提出について詳しく説明した。			
授業内容 とそれに対する TA の業務 内容	授業内容は材料組織学入門の基本的な問題の演習である。 TA の業務内容は提出された演習課題の採点業務である。				
TA 実施による成果・意見・感想・要望	材料組織学の基本的な問題であるため、課題量が必然的に多くなり採点業務は大変であったと思うが、細部まで正確に採点業務が行われ、 授業担当者としては、授業進行の多大な支援となり演習指導に傾注することが出来た。				

記入方法

- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

様式 1 (T A 学生用)

平成 21 年度 (前期) ティーチング・アシスタント (T A) 実施報告書

報告書作成日: 2009 年 8 月 26 日

報告書作成者	物質工学 専攻	学生番号 09NM555T	氏名 叶野 翔 
担当授業	マテリアル工 学科 3 年対象 科目名: 材料組織学演習		
授業の担当教員名	永野 隆敏		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。		講義中に出题された問題 (課題) の採点作業	
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例: 事前のオリエンテーションが不十分, 業務の内容が複雑すぎるなど)		作業内容や方法に対しての問題点等はないと考える。	
3. TA 業務を行って新たに得られたこと (知識や有用な経験など) を記入してください。		自分自身が TA として採点業務を行う事で、相手に理解してもらうための証明方法や、論理の組み立ての必要性に気が付く事が出来たと思う。	
4. その他、感想など自由に記入してください。		TA 業務という貴重な体験を通して、様々な事に気が付き、再認識する事が出来たと思う。	

平成 21 年 9 月 30 日 文責 鈴木徹也

塑性工学 担当者 鈴木徹也

3 年前期選択必修 B・講義

学習内容の区分＝専門分野（2）材料のプロセスに関する基本の理解 22.5 時間

学習目標＝（D）◎、（G）○

D. マテリアル工学の専門知識とその応用能力の修得

G. 自主的、継続的に学習する能力の修得

学習目標（D）については、マテリアル工学の専門知識とその応用能力を身に付けさせることができたので、十分に達成できたと考える。講義中にショートクイズを行い、採点後に次週に学生に返却する。この方式は概して好評であることが、中間アンケートで確認された。

学習目標（G）については、最終アンケートの結果から予習復習時間がやや不足していることがうかがえるので、今後進行速度及び内容を増加し、宿題もふやすことで改善を考えたい。

授業の概要

金属のすべり変形、結晶の回転、集合組織および高温変形に伴う動的再結晶について扱う。

授業方法

毎回授業の最初にショートクイズプリントを配布し、授業中に講義を聴きながらメモし、あるいは問題を解いて授業後に回収するシステム。翌週には添削した後に学生に返却される。

FD において、アンケートの問 2 と問 4 についてその差があることが議論された。来年度は配布プリントを採点するが成績には加えない方法で JABEE に伴う負担増かを軽減する工夫を試みる。

[授業評価のトップページへ](#)

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8233 塑性工学

Go

Reset

 →→→ [編集する](#) ←←←

記入日	平成 21 年 9 月 25 日		
授業科目名	塑性工学	(1 単独 2 分担)	1
担当教員名(全員)	鈴木徹也	記入者名	鈴木徹也
前後期別(1前期 2 後期)			1
必修/選択(1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)			1
授業形態(1 講義 2 実験・実習 3 演習)			1

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスは[ガイドライン](#)に従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進化したか

1 進化した 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行ったか

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	1
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	1
	レポート	1
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	34
Q2. 取止者数	0
Q3. 欠試者数	0
Q4. 受験者数	34
Q5. 不合格者数	0

Q6. 成績分布

A+	29.4 %	10 人
A	35.2 %	12 人
B	14.7 %	5 人

C	11.7 %	4 人
D	8.8 %	3 人
E	0.0 %	0 人
合計	100 %	34 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された 2 ほぼ達成された 3 達成されていない	1
理由	AおよびA+が34人中22名であり、また理解不足のものには宿題を出す工夫をした。授業内容は理解されたと考える。

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

自宅学修時間の不足が課題として残った。宿題を多く出し、授業の内容を増量した。

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

進度が速い、という指摘が一部にあった。が想定の範囲内であったので特に改善しなかった。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

最終アンケートでは得るものが大きいに対する回答の平均が1.78(昨年1.78、一昨年1.43)、進度は2.69(昨年2.63)、理解度は2.44(昨年2.29)となった。また、予習復習時間は3.26(昨年3.15)であった。昨年よりもさらに宿題を多くした結果やや自宅学習時間が増えた。まだ足りないと考える。昨年よりやや進度を上げ、理解度を増やすことに成功した。

Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

昨年と同様であるが、今年度よりも進度をやや速め、授業時間に理解できるかどうかぎりぎりのところを狙おうと考える。自宅における復習時間増加の効果を期待する。

Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

毎回授業ごとにプリントを配布し、ショートクイズを解かせて、次週採点して戻す。理解度を把握しやすい。教科書の内容、独自の内容、話題提供をバランスよく配分し、あきないようにした。また、板書、プリント読み、ショートクイズを10分ごとに繰り返し、学生が寝ないように工夫した。

回答一覧

T8233	科目名	塑性工学	学科名	マテリアル工学科	担当教員	鈴木 徹也	力一ド枚数	27 枚	処理日時	2009/8/10
-------	-----	------	-----	----------	------	-------	-------	------	------	-----------

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	2	13	13	7	3	0
2	0	10	4	4	0	0	0
3	1	2	4	20	0	0	0
4	0	4	9	12	2	0	0
5	6	9	0	2	1	0	9
6	0	6	4	11	2	3	1
7	1	9	9	8	0	0	0

回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	7.4	7.4	48.1	25.9	11.1	
2	0	37	48.1	14.8	0	0	
3	3.7	7.4	14.8	74.1	0	0	
4	0	14.8	33.3	44.4	7.4	0	
5	22.2	33.3	0	7.4	3.7	0	33.3
6	0	22.2	14.8	40.7	7.4	11.1	
7	3.7	33.3	33.3	29.6	0	0	

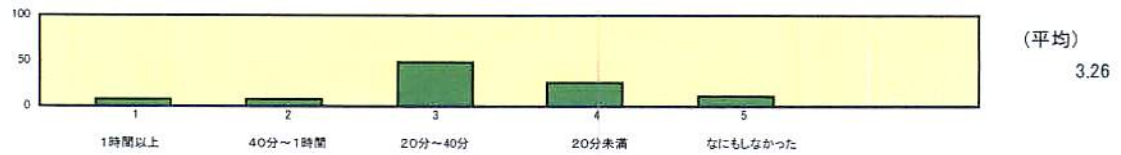
科目一覧(シラバス)

T8233	科目名	塑性工学	学科名	マテリアル工学科	担当教員	鈴木 徹也
-------	-----	------	-----	----------	------	-------

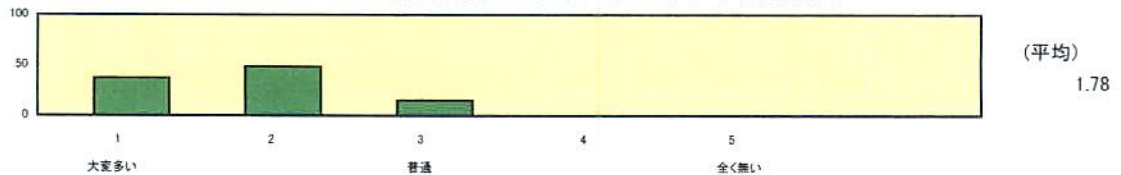
回答数: 27

処理: 2009/8/10

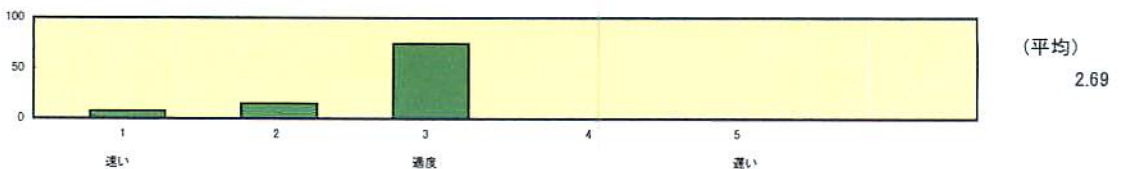
(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)



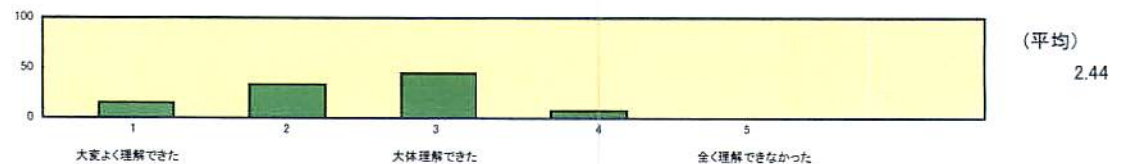
(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)



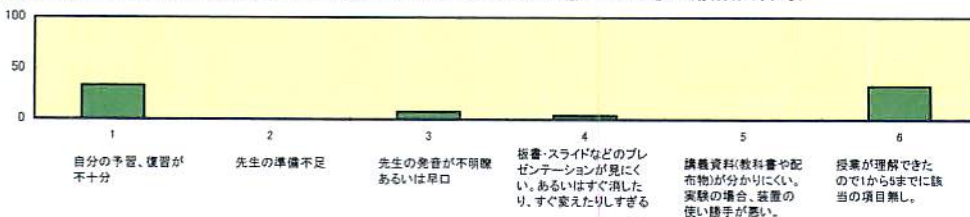
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)



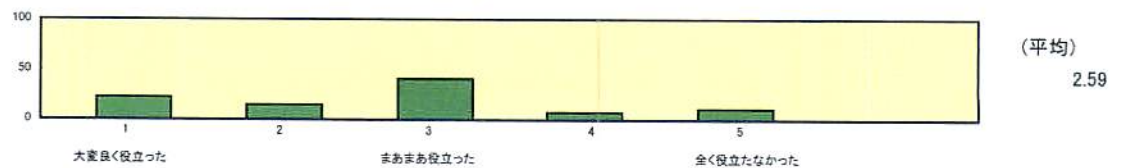
(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)



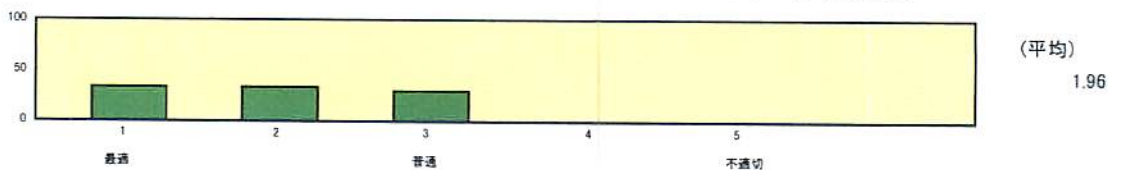
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)



(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)



[授業評価のトップページへ](#)

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8237 電子・情報材料工学

Go

Reset

→→→ [編集する](#) ←←←

記入日	平成 21 年 9 月 29 日		
授業科目名	電子・情報材料工学	(1 単独 2 分担)	1
担当教員名(全員)	大貫仁	記入者名	大貫 仁
前後期別(1前期 2 後期)	1		
必修／選択(1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)	2		
授業形態(1 講義 2 実験・実習 3 演習)	1		

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスは[ガイドライン](#)に従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進化したか

1 進化した 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	学生の理解が不十分と判断したときは説明に時間をかけたので少し異なる場合があった。

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行ったか

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
---------------------------	---

異なった理由	
--------	--

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	0
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	2
	レポート	2
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	60
Q2. 取止者数	14
Q3. 欠試者数	0
Q4. 受験者数	46
Q5. 不合格者数	4

Q6. 成績分布

A+	13.0 %	6 人
A	32.6 %	15 人
B	21.7 %	10 人
C	13.0 %	6 人

D	10.8 %	5 人
E	8.6 %	4 人
合計	100 %	46 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された 2 ほぼ達成された 3 達成されていない	2
理由	46%の学生がA以上の成績であるため。A+がかなり増えた。

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

--

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

授業を丁寧に行うこと。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

67%の学生が授業を大体理解できたとの報告がある。33%の学生は余り理解していない。
--

Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

中間に理解度評価の予備テストを行うことにより、最終の試験の成績は著しく向上した。予備テストを出来る範囲で多くするのも良い方法である。
--

Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

懇切丁寧に教科書を説明している。

時間割コード	T8237
科目名	電子・情報材料工学
学科名	マテリアル工学科
担当教員	大貫 仁
カード枚数	24 枚
処理日時	2009/8/10

回答データ

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	2	2	6	7	7	0
2	0	8	11	4	1	0	0
3	0	1	11	12	0	0	0
4	0	4	1	11	8	0	0
5	2	15	1	0	2	0	4
6	0	4	4	12	2	2	0
7	0	5	9	9	1	0	0

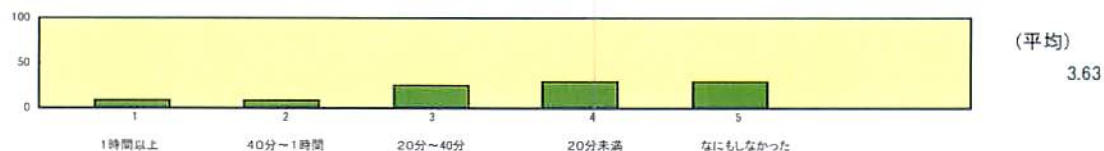
回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	8.3	8.3	25	29.2	29.2	
2	0	33.3	45.8	16.7	4.2	0	
3	0	4.2	45.8	50	0	0	
4	0	16.7	4.2	45.8	33.3	0	
5	8.3	62.5	4.2	0	8.3	0	16.7
6	0	16.7	16.7	50	8.3	8.3	
7	0	20.8	37.5	37.5	4.2	0	

科目一覧(シラバス)

時間割コード	科目名	学科名	担当教員
T8237	電子・情報材料工学	マテリアル工学科	大貫 仁

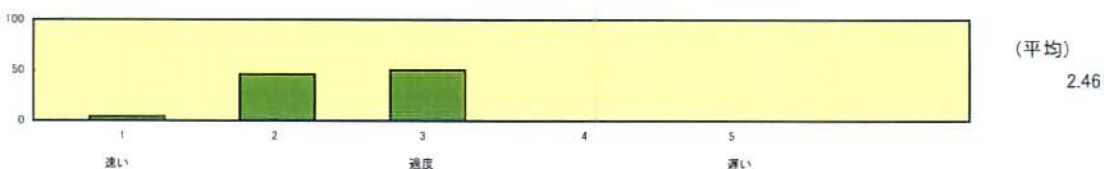
(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)



(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)



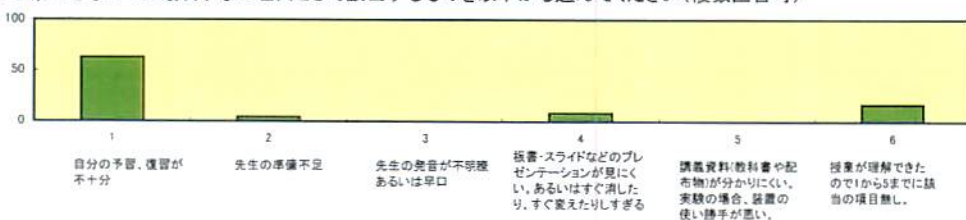
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)



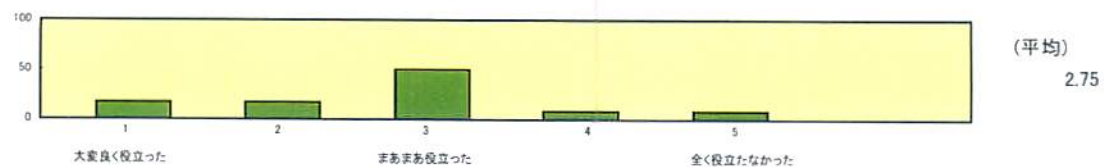
(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)



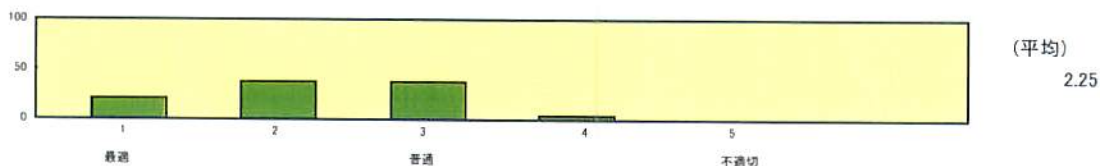
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)



(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)



平成 21 年 9 月 30 日 文責 永野

マテリアルシミュレーション演習 担当者 永野隆敏

2 年前期必修・演習

学習内容の区分＝

専門分野

(1)材料の構造・性質に関する基本の理解 11.25 時間

(2)材料のプロセスに関する基本の理解 11.25 時間

学習目標＝(C) ○, (D) ◎,(E) ○,(G) ○

C.マテリアル工学技術者に必要な数学、物理、情報処理に関する基礎知識とその応用能力の修得

D. マテリアル工学の専門知識とその応用能力の修得

E. 問題解決のために種々の情報や科学技術に関する知識を総合判断できる能力の修得

G.自主的、継続的に学習する能力の修得

学習目標 (C) については、マテリアル工学の基礎としての、情報処理の基礎知識を身に付けさせることができたので、十分に達成できたと考える。基礎的なアルゴリズムを理解し、「プログラムを読める」能力と簡単な「プログラムを書く」能力は、演習を細かくやることで身に付いたと、アンケートの理解力向上からもほぼ達成できたと確認できた。設問を考える際、TA とも協力してもらい、学生が答える際に迷うことのないような問題作成を心がけたことも、学生が理解するうえで効果があったと考えられる。

学習目標 (D) については、「専門知識」として、微分方程式など多岐にわたって必要となるであろう「数値的な解法の基礎」と、その応用問題も学習したので、達成されたと考えられる。

学習目標 (E) については、総合判断できる能力として、毎回の演習以外に、試験を 2 度行っており、その判断能力も習得していると思われるが、一部の学生に、まだ、応用を解くには不十分だと思われるので、達成度としては 8 割と考えている。

学習目標 (G) については、最終アンケートの結果から予習復習時間が、学生によってばらつきがある。成績評価には直接関係内が高度な問題も紹介したことで、意欲あるものは 1 時間以上自習を行う学生もでてきた。しかし、未だ、なにもしない学生がいることを踏まえると、明確に予習プリントなど、考慮する部分もあると考えられる。

[授業評価のトップページへ](#)

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8240 マテリアルシミュレーション演習

Go

Reset

→→→ [編集する](#) ←←←

記入日	平成 21 年 9 月 1 日		
授業科目名	マテリアルシミュレーション 演習	(1 単独 2 分担)	1
担当教員名(全員)	永野隆敏	記入者名	永野隆敏
前後期別 (1前期 2 後期)	1		
必修／選択 (1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)	1		
授業形態 (1 講義 2 実験・実習 3 演習)	3		

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスはガイドラインに従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進化したか

1 進化した 2 少し異なった 3 かなり異なった	2
異なった理由	2週にわたって実施する予定であった内容を1週にして、テスト対策という形で、復習を行った。

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行ったか

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	1
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	1
	レポート	1
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	40
Q2. 取止者数	0
Q3. 欠試者数	2
Q4. 受験者数	38
Q5. 不合格者数	2

Q6. 成績分布

A+	21.0 %	8 人
A	23.6 %	9 人

B	21.0 %	8 人
C	18.4 %	7 人
D	10.5 %	4 人
E	5.2 %	2 人
合計	100 %	38 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された	2 ほぼ達成された	3 達成されていない	2
理由	前半ではC言語の文法を中心に、後半は簡単な応用(微分、積分への適用など)をおこなったが、内容はかなり理解できていたと思われる。ただ、ユーザー関数など、学生によっては、不得意な分野も多く見られる。		

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

昨年、進行が早い部分があり、一部進行を遅らせた。そのおかげで部分的に理解は進んだが、1週ごとの内容で記憶がとまってしまい、積み重ねがうまくいかない学生が数名いた。対策としては、問題に「復習問題」など以前配布したプリントを参照するように促す「印」をつけて、同じ問題を週をまたいで繰り返し出題するようにした。

また、昨年は予習を促すために、次週のプリントを前もって配布したが、逆に説明を聞かず、勘違いをしてそのまま覚える学生が多かったので、やはり、キーワードのみにとどめた。

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

やはり、高校でC言語を学習してきた者としていない者との差から、レベルを下けている分、「もっと問題を出してほしい」という声があった。3年生で必修ということもありレベルを上げるのは難しいので、「応用問題」や「 α 問題」という形で、「やっておくと良い事があるよ」と言って、別に問題を出した。直接の配点は課さない問題であるが、中間評価などで、そこから出題したり、提出期限を遅れてきた学生に「応用問題といっしょに持ってくれば受け取る」という形にして、意欲のある者と課題を提出していない者の両方に意欲を維持させるように誘導した。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

- ・Q1(復習問題の追加)Q2(応用問題、 α 問題の追加)などに対して、アンケート項目(1)の予習・復習時間が20～40分に多く見られたが、1時間以上というものも出始めた。質問等を授業以外で聞きに来る学生も増えた。
- ・(2)学習意欲に対しては、応用問題～基礎の復習問題を毎回出すようにしたので、学生全体にわたって、維持できたと考えられる。
- ・(3)進行に対してはやや速い偏っており、配布プリントに書かれている内容がボードに書いていることを理解できていない学生が、このように考えたと思われる。
- ・(4)理解度は、後半の応用が難しいというより「前半の文法」を忘れている者が取り残されているように感じた。

- ・(5)理解できなかった理由で、半数が予習・復習の不足と言っているが、板書の見にくさという意見もある。
- ・(6)シラバスに関しては、毎授業、シラバスのここをやりますなど、アナウンスしたので、さすがに学生も参考にしたようだった。
- ・(7)成績評価は、逐一その評価の割合をアナウンスしているのと、遅れてきたレポートも追加の問題など解かせることで受け取っているので、学生も納得しているようだ。

Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

- ・(3)の進行が速いへの偏りがあった事に対して、1.板書を消すのを遅らせる、2.いままで、演習時間の前半を説明、後半を演習解答にしていたが、説明の時間に記入させながら学習するプリント形式にする の二つを考慮する。
- ・後半の応用問題に入る前に「まとめのプリント」を配ってそれを見ながら説明を聞くようにさせる。(今回は配っただけ)
- ・今年度は、復習プリントを配布した。これが予習につながると思って実施し、理解度の底上げにはなったと思われる。しかし、予習を促せられれば、「進行が速い」という意見が少なくなると思われるので、ショートクイズ形式の問題を宿題として出して、これを予習として提出してもらうことを考えている。

Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

- ・学生への説明をなるべく、同じ内容でも繰り返し説明するようにした。これは、遅れてくる学生に対して と、うまく説明を聞けない学生に対してを考慮のため。
- ・プリントを配っても読まないで問題を解き始める学生がいるので、TAにお願いして、一緒に「プリントの どの部分がこの問題を解くのに必要なところか」を指し示しながら指導してもらうようにした。
- ・C言語がわからないのか、数学がわからないかを区別できずにいたので、この確認をする(たとえば、 X^3 の積分ができない学生が2人いた。数値積分をさせて精度の比較をする問題)

時間割コード	T8240
科目名	マテリアル シミュレーション演習
学科名	マテリアル工学科
担当教員	永野 隆敏
カード枚数	34 枚
処理日時	2009/8/10

回答データ

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	5	3	19	3	4	0
2	0	6	14	13	1	0	0
3	0	2	11	20	1	0	0
4	0	4	6	14	10	0	0
5	4	15	3	2	5	2	3
6	0	6	7	16	2	2	1
7	1	10	10	13	0	0	0

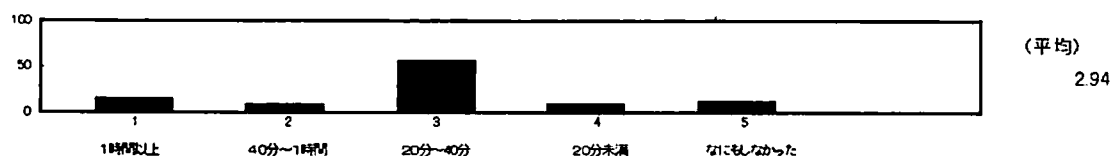
回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	14.7	8.8	55.9	8.8	11.8	
2	0	17.6	41.2	38.2	2.9	0	
3	0	5.9	32.4	58.8	2.9	0	
4	0	11.8	17.6	41.2	29.4	0	
5	11.8	44.1	8.8	5.9	14.7	5.9	8.8
6	0	17.6	20.6	47.1	5.9	5.9	
7	2.9	29.4	29.4	38.2	0	0	

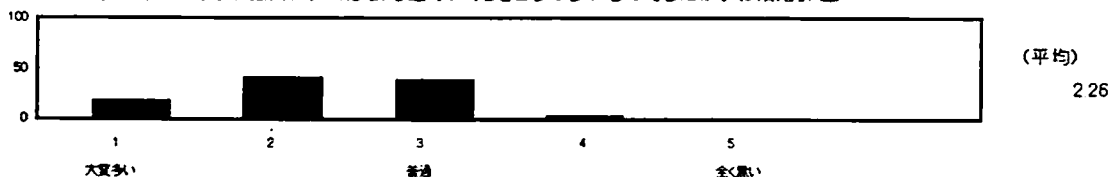
科目一覧(シラバス)

時間割コード	科目名	学科名	担当教員
T8240	マテリアル シミュレーション演習	マテリアル工学科	横田 仁志 永野 隆敏

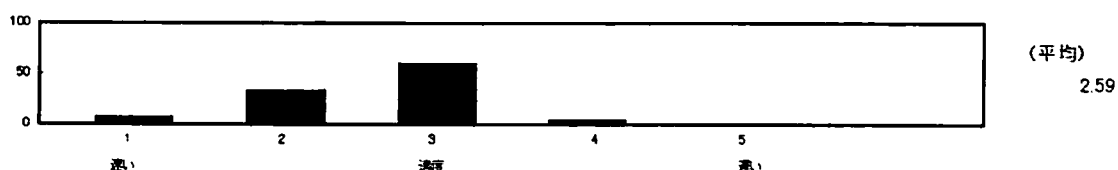
(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)



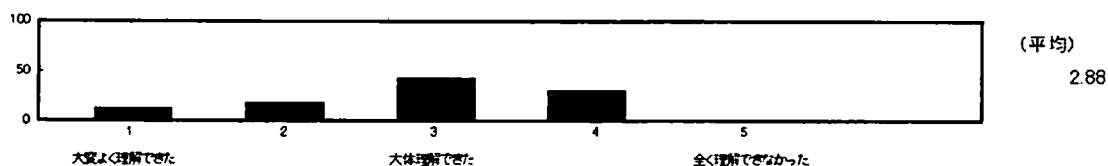
(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)



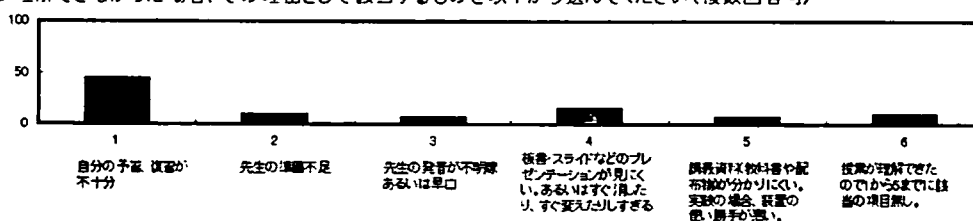
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)



(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)



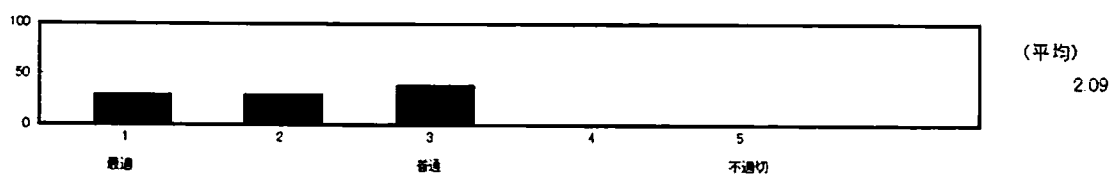
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)



(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)



様式2 (授業担当教員用)

平成21年度(前期)ティーチング・アシスタント(TA)実施報告書

報告書作成日: 2009年8月25日

学 科	マテリアル工学科	授業科目	マテリアルシミュレーション演習		
担当教員	永野隆敏	受講学生数	40名(学期終了後に記入)		
担当TA (全員の氏名)	川島理栄 谷本悟	時間数	14		
オリエンテーションの実施内容	実施日時	オリエンテーションの内容			
	2009年 4月7日	川島理栄さんへ実施内容 授業中における学生の質問(パソコンの使い方・C言語のエラー処理等)に対応についての内容確認 谷本悟くんへの実施内容 演習の問題確認と採点を行う。よって前もってC言語の内容を使用するプリントにより確認してもらう。			
授業内容 とそれに対する TAの業務 内容	C言語の例題を説明し、毎回演習問題を解き提出させる。 川島さんには、授業中の学生への対応をお願いし、谷本くんにはプリント確認や演習の採点をお願いした。				
TA実施による 成果・意見・ 感想・要望	TAの仕事を通して、学生の知識も増し、また、後輩たちとの交流にもなるので制度として、有意義だと思う。 ただ、M1に対して、授業が重なり、TAとして働けない時間帯があるので、前もってその時間も含めて、TAの割り振りも、考えたほうがいいのかもしい。 授業を受ける学生がTAに演習の答えを直接聞く傾向が多くなってきたので、TAには「答えを教える」のではなく、「答えに導く」説明をするようにと細かい指導をするようにした。				

記入方法

- 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

様式 1 (TA 学生用)

平成 21 年度 (前 期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日： 21 年 8 月 25 日

報告書作成者	物質工学 専攻	学生番号 08NM512T	氏名 川島 理栄 
担当授業	マテリアル工学科 3 年対象 科目名：マテリアルシミュレーション演習		
授業の担当教員名	永野 隆敏		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。		授業中における学生の質問 (パソコンの使い方、C 言語のエラー処理等) に対応した。	
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例：事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)		質問してくる学生が、演習の答えを直接聞いてくることが多かったように感じた。なので、なるべく「答えを導く」説明をするように努めた。	
3. TA 業務を行って新たに得られたこと (知識や有用な経験など) を記入してください。		人に教えることは難しかったが、どのようにわかりやすく教えるかを考えることで自分自身の知識もより高まったと思う。また、多くの学部生の後輩と直接交流ができ有意義であった。	
4. その他、感想など自由に記入してください。		特になし	

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、 _____ に提出してください。提出締切は 月 日とします。

様式 1 (TA 学生用)

平成 21 年度 (前 期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日 : 2009 年 8 月 26 日

報告書作成者	物質工学 専攻	学生番号 09NM557G	氏名 谷本 悟
担当授業	マテリアル工学科 3 年対象 科目名 : マテリアルシミュレーション演習		
授業の担当教員名	永野 隆敏		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。		配布プリントの内容確認及び成果物の採点	
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例 : 事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)		成果物提出者の説明力不足と採点者の理解力不足が重なり、成果物を過小評価していないかの不安が残る。配布プリントの内容確認時には、説明し易い設問を授業担当教員と共に考え、採点時には、提出者の立場に立って説明を読むように心がけた。	
3. TA 業務を行って新たに得られたこと (知識や有用な経験など) を記入してください。		TA 業務を行う以前より、プログラミング特に C 言語について理解が増した。	
4. その他、感想など自由に記入してください。		なし	

平成 21 年 9 月 30 日 文責 太田

計算材料学基礎 担当者 太田弘道

2 年前期必修・講義

学習内容の区分＝材料のプロセスに関する基本の理解 11.25

材料の機能および設計・利用に関する基本の理解 11.25

学習目標＝ (D) ◎, (G) ○

D. マテリアル工学の専門知識とその応用能力の修得

G. 自主的、継続的に学習する能力の修得

学習目標 (D) は、セラミックス工学に関する広範な知識を身につけさせることができ達成できたと考える。しかし、学生の自己評価がやや低く、自宅学習の時間が短いので授業としてより高いレベルを目指すべきであると考えている。

学習目標 (G) についても自宅学習の時間が多くの学生について不十分でありなんとか自習の習慣を身につけさせねばならないと思う。

FD においては、去年に比べると教育内容の絞込みで最終的な成績は上がったが学生の自分自信に対する評価（理解できたという満足度）と自宅学習の時間が低いことから、もう少しレベルを上げてモチベーションの高い学生にも学生も十分達成感を感じさせる授業としたいという点を中心に事業評価シートに従って議論を行った。

[授業評価のトップページへ](#)

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8242 セラミックス物性学

Go

Reset

→→→ [編集する](#) ←←←

記入日	平成 21 年 9 月 13 日		
授業科目名	セラミックス物性学	(1 単独 2 分担)	1
担当教員名(全員)	太田弘道	記入者名	太田弘道
前後期別(1前期 2 後期)	1		
必修/選択(1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)	1		
授業形態(1 講義 2 実験・実習 3 演習)	1		

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスは[ガイドライン](#)に従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進捗したか

1 進捗した 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行なったか

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	1
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	1
	レポート	1
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	46
Q2. 取止者数	8
Q3. 欠試者数	0
Q4. 受験者数	32
Q5. 不合格者数	6

Q6. 成績分布

A+	13.1 %	5 人
A	28.9 %	11 人
B	13.1 %	5 人
C	10.5 %	4 人
D	18.4 %	7 人

E	15.7 %	6 人
合計	100 %	38 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された 2 ほぼ達成された 3 達成されていない	1
理由	成績分布が適正

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

三年生の授業であるということをあまり意識しないで、基礎から教えて行きたい。内容もさらに厳選する。そして、合格者を増やす。昨年までは低学年で学んだことを基礎として授業を構成することを考えてきたのだが、実際には、低学年の知識があることは保証されていないので、この授業だけで完結するような形の授業に内容を改め、全体に大きく教える範囲を絞り込む。授業時間以外に学習させるための宿題を出す。

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

中間アンケートは、扱っている内容の量、基礎的な内容や既に学んだことに対する説明の量、授業時間以外の学習の量について質問した。内容の量については多いと感じている人が少なくなったがまだ少し多いようだ。また基礎的な内容や既に学んだことに対する説明の量もやや少ないと感じているようだ。ほとんど授業時間以外には学習していないことが分かった。レポートを課した。また、さらに内容を減らし、丁寧に教えた。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

理解させるように気を付けて授業を授業を行った。アンケートの評価は普通。最終的な成績は改善された。来年はこれ以上は量を減らせないのでより丁寧に説明を行うような授業を実施したい。

Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

基礎からじっくり教えて行きたい。内容はこれ以上減らせないので説明の順序などを工夫して分かりやすくしたい。合格者数も適正だと思うが、理解できたという満足度が低いので重要でないところを言及しないようにして満足度をあげる。授業時間以外に学習させるための宿題を課したのだが、配点が小さかったのでやった人が少なかった。小テストは採点の負担が大きいが、教員の授業数を減らせばそうしたこともできると思う。今年は校務と引越しの追われて小テストは少ししかできなかった。

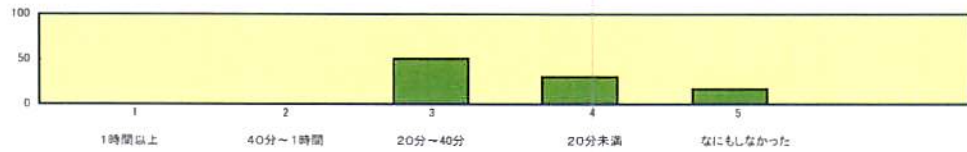
Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

分かりやすい授業を心がけている。アンケートの結果などをみると評価する学生もいるが、否定的な学生もいる。だれにでも分かりやすい授業としたい。

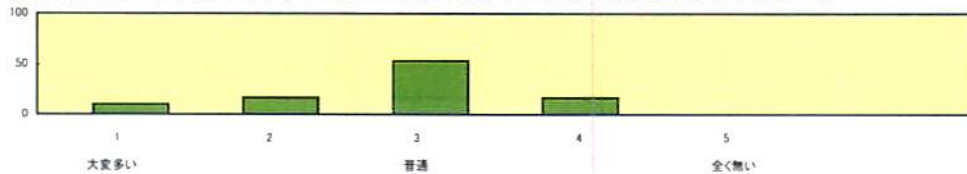
回答数: 30

処理: 2009/8/10

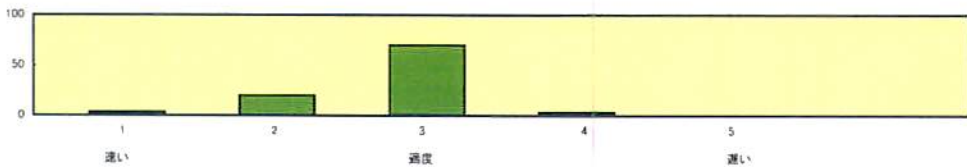
(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)

(平均)
3.66

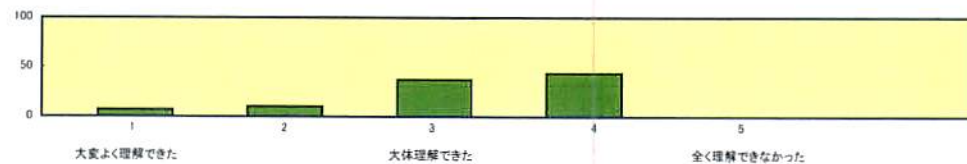
(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)

(平均)
2.79

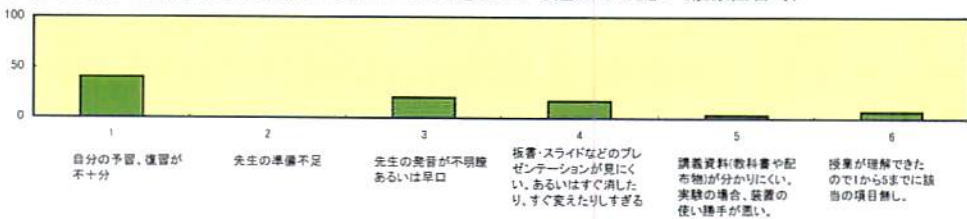
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)

(平均)
2.76

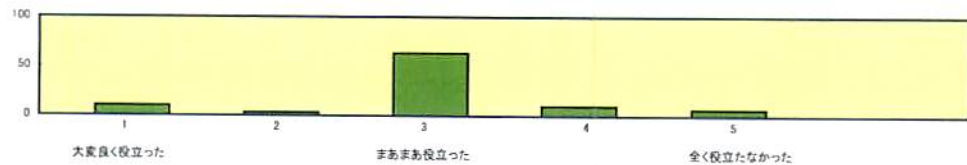
(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)

(平均)
3.21

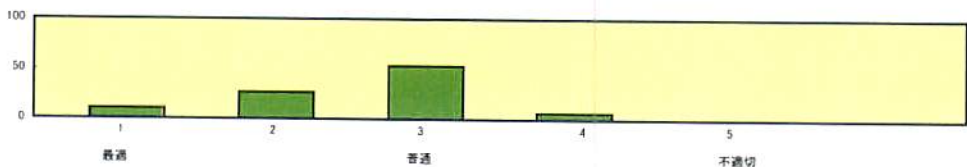
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)

(平均)
3

(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)

(平均)
2.59

時間割コード	T8242
科目名	セラミックス物性学
学科名	マテリアル工学科
担当教員	太田 弘道
カード枚数	30 枚
処理日時	2009/8/10

回答データ

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	1	0	0	15	9	5	0
2	1	3	5	16	5	0	0
3	1	1	6	21	1	0	0
4	1	2	3	11	13	0	0
5	4	12	0	6	5	1	2
6	2	3	1	19	3	2	0
7	1	3	8	16	2	0	0

回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	3.3	0	0	50	30	16.7	
2	3.3	10	16.7	53.3	16.7	0	
3	3.3	3.3	20	70	3.3	0	
4	3.3	6.7	10	36.7	43.3	0	
5	13.3	40	0	20	16.7	3.3	6.7
6	6.7	10	3.3	63.3	10	6.7	
7	3.3	10	26.7	53.3	6.7	0	

科目一覧(シラバス)

時間割コード	科目名	学科名	担当教員
T8242	セラミックス物性学	マテリアル工学科	太田 弘道

平成 21 年 9 月 30 日 文責 鈴木徹也

マテリアル実験Ⅱ 担当者 鈴木徹也

3 年前期必修・実験

学習内容の区分＝専門分野(4)実験の計画・実行およびデータ解析の能力 45 時間

学習目標＝ (D) ◎, (E) ○ (G) ○

D. マテリアル工学の専門知識とその応用能力の修得

E. 問題解決のために種々の情報や科学技術に関する知識を総合判断できる能力の修得

G. 自主的、継続的に学習する能力の修得

学習目標 (D) については、マテリアル工学の専門知識とその応用能力を身に付けさせることができたので、十分に達成できたと考える。

学習目標 (E) についてはレポート課題を作成する段階で様々な調査を必要とするため、十分達成されていると考える。

学習目標 (G) については、最終アンケートの結果から十分な予習復習時間が得られていることが分かる。レポート課題を課していることが理由と思われる。

授業の概要及び方法

前半は計算機実験後半は 6 グループに分けて無電解銅めっき、XRD、鋼の焼入れ、Si-Al 二元合金状態図、引張り試験、半導体の電圧電流特性の実験を行う。学生は各自レポートをまとめ、完成度が高くなるまで再提出を繰り返して完成させる。TA は実験のサポートを行う。

アンケート結果まとめ

アンケート結果から得るものが大きく、理解度も高いと評価されている。自宅学習時間も長く、レポートの効果である。レポートのチェックの度合いが教員により差があるようである。また、TA により教員の負担は軽減され、また TA 報告書では指導方法など得るものが大きいという感想が多い。

FD において、学生の成績確認表の最終提出日が毎年 7 月 31 日であり、補講が一つでも入ると間に合わない学生が出てくるという指摘あり。来年度からは提出日を 1 週間程度遅らせる。来年度より実験内容が大幅に変化するので様子を見る。

[授業評価のトップページへ](#)

平成21年度 茨城大学工学部専門科目 教員による授業評価

マテリアル工学科専門科目

T8249 マテリアル実験II

Go

Reset

→→→ [編集する](#) ←←←

記入日	平成 21 年 9 月 28 日		
授業科目名	マテリアル実験II	(1 単独 2 分担)	1
担当教員名(全員)	マテリアル工学科教員	記入者名	鈴木徹也
前後期別 (1前期 2 後期)			1
必修／選択 (1 必修 2 選択必修 3 選択 4 その他)			1
授業形態 (1 講義 2 実験・実習 3 演習)			1

項目A: シラバスの作成

Q1. シラバスは[ガイドライン](#)に従って作成したか

1 従った 2 従わなかった	1
ガイドラインに従わなかった理由	

Q2. 各授業時間ごとのテーマを明示したか

1 示した 2 示していない	1
各授業時間ごとのテーマを示さなかった理由	

Q3. 成績の評価方法を具体的な形で示したか

1 示した 2 示していない	1
示さなかった理由	

項目B: 授業とシラバスとの整合性

Q1. 授業内容は、シラバス通りに進化したか

1 進化した 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q2. 成績評価は、シラバス通りに行ったか

--	--

1 行なった 2 少し異なった 3 かなり異なった	1
異なった理由	

Q3. 出席はとっているか

1 とっている 2 とっていない	1
とらなかった理由	

Q4. 成績評価基準は作成しているか

1 作成している 2 作成していない	1
作成しなかった理由	

Q5. 資料は保存しているか

0 保存していない 1 保存している 2 実施せず	配布資料	1
	出席簿	1
	成績	1
	成績評価方法	1
	レポート課題	1
	レポート	1
	試験	1
	模範解答	1
	答案	1

項目C: 成績と達成度

Q1. 履修者数	44
Q2. 取止者数	0
Q3. 欠試者数	0
Q4. 受験者数	0
Q5. 不合格者数	6

Q6. 成績分布

A+	86.3 %	38 人
A	0.0 %	0 人
B	0.0 %	0 人

C	0.0 %	0 人
D	0.0 %	0 人
E	13.6 %	6 人
合計	100 %	44 人

Q7. 授業の狙いは達成されたか

1 達成された 2 ほぼ達成された 3 達成されていない	1
理由	レポートは合格となるまで何度も再提出をさせており、合格者は内容を理解していると考え。

項目D: 点検結果と改善

Q1. 昨年の授業を終えて、課題として残った点とその改善策を列挙してください

今年度はW3棟改修に伴い、実験スペースを別に確保しての実験であった。後半グループではスペースが狭いなどの問題点もあったが来年度には解決されるであろうと考える。

Q2. 授業の中間アンケートで指摘された問題点とその改善策を列挙してください

マテリアル実験IIの中間授業アンケートの結果は以下のようなものであった。授業の進む速さ、教材、採点方法とも良いが多い。課題は、難しすぎる、難しい、ちょうどよい、易しい、簡単すぎるのうちで、難しいにピークがある、量は、多すぎる、多い、ちょうどよい、少しもの足りない、少ないなすぎるのうちで、ちょうどよいが多い。理解度は、材料力学の初歩の理解度が高いが、拡散方程式の解析解、拡散方程式の数値解は理解度が低い。なお、数人の学生から、TAが学生の回りを回わって欲しいとの希望があったが人員的に無理があると思う。去年よりやや程度を下げたが、迷った末に拡散方程式の解析解、拡散方程式の数値解は少し程度を下げて残した。昨年よりは評価が上がっている。また、授業と演習を有機的に結び付けて欲しいという指摘もあった。計算機室の拡充で授業自体を端末を目の前において行えるようになったこと、個人がPCを持つようになったこと、TAが増員されたこと、ネットワーク上の初歩的な情報の集積が容易になったこと、などで学生実験をこのような目的に使うことはもう時代錯誤になりつつあるのかも知れない。カリキュラム全体を見直したほうがよいだろう(太田)。

Q3. 最終アンケートの結果をふまえて、Q1,Q2の改善策が有効だったか。またどのような点が問題点として残ったか列挙してください

最終アンケートでは得るところは2.11、進度は2.72、理解は2.49、予習復習時間では1.83である。レポートのためか自宅学習時間が多いのが特徴である。満足度、理解度ともに高い水準にあるため概ね良好と考えられるが、個別にはちゃんとレポートを見ない教員がいるなどの指摘もあった。

Q4. Q3の問題点について、来年度の授業をする上での改善策を列挙してください

レポートをちゃんと見て欲しい要望もあることをFDで各教員に伝え、改善を期待する。

Q5. 上記の改善策とは別に、授業をする上で特に注意・工夫している点を列挙してください

時間割コード	T8249
科目名	マテリアル実験Ⅱ
学科名	マテリアル工学科
担当教員	マテリアル工学科教員
カード枚数	36 枚
処理日時	2009/8/10

回答データ

回答分布 (延人数)

質問番号	無回答	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	25	1	4	3	3	0
2	0	11	10	15	0	0	0
3	0	3	5	27	1	0	0
4	1	7	8	17	2	1	0
5	4	10	0	5	3	2	12
6	1	6	4	17	2	6	0
7	0	9	7	18	2	0	0

回答分布 (割合)

質問番号	無回答(%)	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6
1	0	69.4	2.8	11.1	8.3	8.3	
2	0	30.6	27.8	41.7	0	0	
3	0	8.3	13.9	75	2.8	0	
4	2.8	19.4	22.2	47.2	5.6	2.8	
5	11.1	27.8	0	13.9	8.3	5.6	33.3
6	2.8	16.7	11.1	47.2	5.6	16.7	
7	0	25	19.4	50	5.6	0	

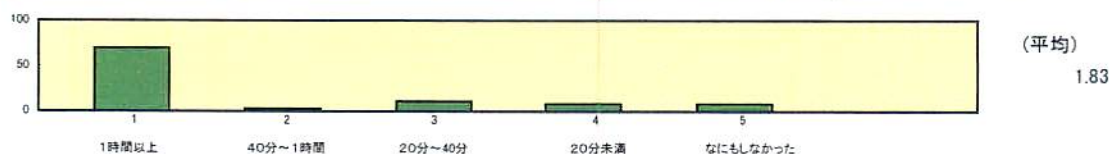
科目一覧(シラバス)

時間割コード	科目名	学科名	担当教員
T8249	マテリアル実験Ⅱ	マテリアル工学科	マテリアル工学科教員

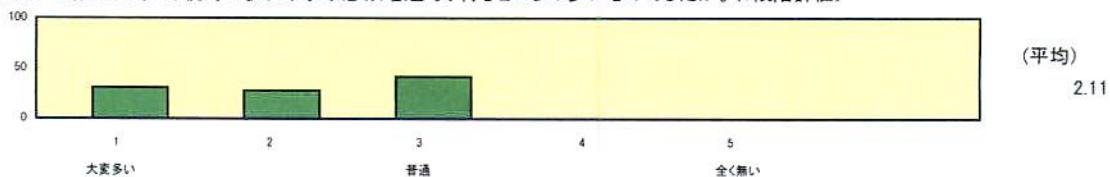
回答数: 36

処理: 2009/8/10

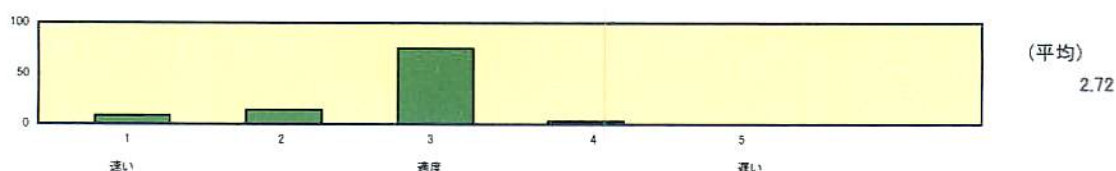
(1)この授業についてどの程度予習・復習をしましたか。(宿題、レポート作成など授業時間以外の学習時間を授業1回について平均)



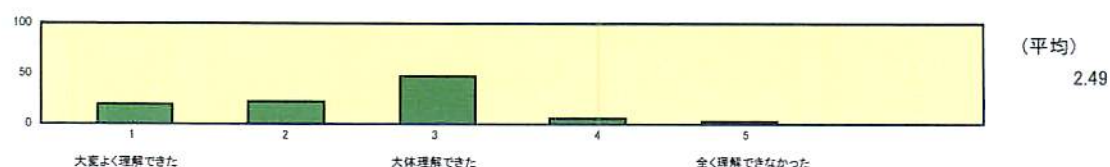
(2)この授業は理解力の向上、視野の拡大、学業意欲増進等、得るところの多いものでしたか。(5段階評価)



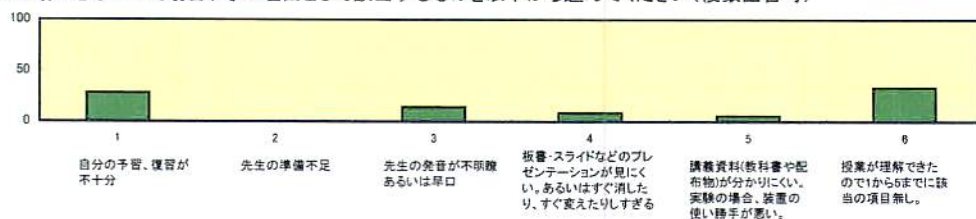
(3)この授業の進度は適度でしたか。(5段階評価)



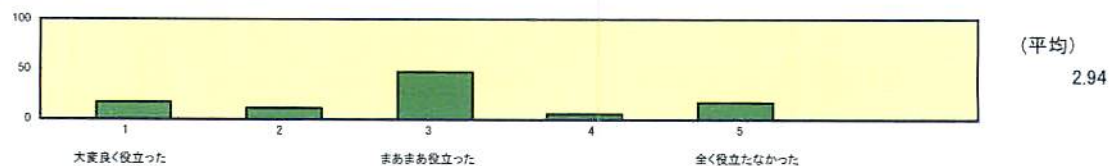
(4)あなたは授業内容を理解できたと思いますか。(5段階評価)



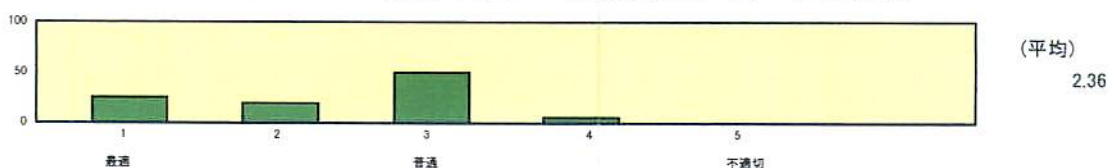
(5)授業が理解できなかった場合、その理由として該当するものを以下から選んでください(複数回答可)



(6)この授業を学ぶ上でシラバスは役に立ちましたか。(5段階評価)



(7)この授業における成績評価の方法(試験やレポートの頻度、出席状況のチェック)は適切だと思いますか。(5段階評価)



様式2 (授業担当教員用)

平成 2 / 年度 (前 期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日: H21 年 8 月 31 日

学 科	マテリアル工学科	授業科目	マテリアル実験 II		
担当教員	鈴木 徹也 (薬)	受講学生数	45 名 (学期終了後に記入)		
担当 TA (全員の氏名)	橋本智彦 表下 享 山口高敏 大田山 修一 赤井田祐直 佐藤通子 根本高志 増谷 聡 竹ノ原 圭介 阿部 竜一也	時間数	1 x 20h x 10人 = 200h		
オリエンテーションの実施内容	実施日時	オリエンテーションの内容			
	4月9日 6月4日	計算機実験に関するオリエンテーション 無電解銅めっき、XRD、SEMの導入、Si-Al二元合金状態図引張り試験、半導体の電圧電流特性に関するオリエンテーション			
授業内容 とそれに対する TAの業務 内容	前半は計算機実験補助、後半は上記各種マテリアル実験の補助 レポートチェック補助				
TA実施による成 果・意見・ 感想・要望	TA実施により、担当教員の負担が軽減された。 TA担当学生も、実験についてより深い知識を得たようだ。				

記入方法

- 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

様式2 (授業担当教員用)

平成 2 / 年度 (前 期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日: H21 年 8 月 31 日

学 科	マテリアル工学科	授業科目	マテリアル実験 II		
担当教員	鈴木 徹也 (薬)	受講学生数	45 名 (学期終了後に記入)		
担当 TA (全員の氏名)	橋本智彦 表下 享 山口高敏 大田山 修一 赤井田祐直 佐藤 直子 根本高志 増谷 聡 竹ノ原 圭介 阿部 尾一也	時間数	1 x 20h x 10人 = 200h		
オリエンテーションの実施内容	実施日時	オリエンテーションの内容			
	4月9日 6月4日	計算機実験に関するオリエンテーション 無電解銅めっき、XRD、SEMの導入、Si-Al合金状態図 引張り試験、半導体の電圧電流特性に関するオリエンテーション			
授業内容 とそれに対する TA の業務 内容	前半は計算機実験補助、後半は上記各種マテリアル実験の補助 レポートチェック補助				
TA 実施に よる成 果・意見・ 感想・要望	TA 実施により、担当 教員の負担が軽減された。 TA 担当学生も、実験についてより深い知識を得たようだ。				

記入方法

- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

様式1 (TA学生用)

平成21年度(前期)ティーチング・アシスタント(TA)実施報告書

報告書作成日: 11月26日

報告書作成者	物質工学 専攻	学生番号 09NM559S	氏名 橋本智彦
担当授業	マテリアル 学科 3 年対象 科目名: マテリアル実験II		
授業の担当教員名	太田弘道 (鈴木徹也)		
1. TA業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。	学生がシミュレーション演習を行うにあたっての指導と採点。		
2. 担当したTA業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例: 事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)	強いて言えば、課題を提出したら早く帰ってしまう学生が多く、採点と指導するまでの時間が空いてしまったこと。		
3. TA業務を行って新たに得られたこと(知識や有用な経験など)を記入してください。	学生に教える為、学生以上に深く実験内容を学べた点。		
4. その他、感想など自由に記入してください。	自分で学ぶのて人に教えることの違いを改めて認識し、難しさを感じるとともにやりがいも感じられたので良かったです。		

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

様式 1 (T A 学生用)

平成 21 年度 (前期) ティーチング・アシスタント (T A) 実施報告書

報告書作成日 : 平成 21 年 8 月 26 日

報告書作成者	物質工学専攻	学生番号 09NM554A	氏名 加藤 高敏 
担当授業	マテリアル工学科 3 年対象 科目名 : マテリアル計算機実験 II		
授業の担当教員名	太田 弘道 (鈴木 徹也)		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。		マセマティカを使用して材料の計算をした回答の答えの確認と誤っている点を個々人を呼び出して指摘した。また講義の内容の質問に答えた。	
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例 : 事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)		マイクを使って呼び出していたが、呼び方が悪かったのか、何度呼んでも来ない人が居たためもう少し呼び出し方法を改善すべきかと思った。また、途中で居なくなってしまう人が居たのでその点も改善したほうがいいと思われる。	
3. TA 業務を行って新たに得られたこと (知識や有用な経験など) を記入してください。		マセマティカによる計算の方法や、材料力学の計算方法の復習になった。	
4. その他、感想など自由に記入してください。		初めての TA だったので初めは上手く出来なかったが、なんとか最後まで出来た。良い体験が出来たと思う。	

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、太田弘道 (図書館分館長室) に提出ください。提出締切は 8 月 27 日とします。

様式 1 (TA 学生用)

平成 21 年度 (前期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日：平成 21 年 8 月 26 日

報告書作成者	物質工学専攻	学生番号 09NM554A	氏名 加藤 高敏 
担当授業	マテリアル工学科 3 年対象 科目名：マテリアル計算機実験Ⅱ		
授業の担当教員名	太田 弘道 (鈴木 徹也)		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。		マセマティカを使用して材料の計算をした回答の答えの確認と誤っている点を個々人を呼び出して指摘した。また講義の内容の質問に答えた。	
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例：事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)		マイクを使って呼び出していたが、呼び方が悪かったのか、何度呼んでも来ない人が居たためもう少し呼び出し方法を改善すべきかと思った。また、途中で居なくなってしまう人が居たのでその点も改善したほうがいいと思われる。	
3. TA 業務を行って新たに得られたこと(知識や有用な経験など)を記入してください。		マセマティカによる計算の方法や、材料力学の計算方法の復習になった。	
4. その他、感想など自由に記入してください。		初めての TA だったので初めは上手く出来なかったが、なんとか最後まで出来た。良い体験が出来たと思う。	

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、太田弘道(図書館分館長室)に提出ください。提出締切は8月27日とします。

様式1 (TA学生用)

平成21年度 (第1期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日: 2009年8月25日

報告書作成者	物質工学 専攻	学生番号 08NM502F	氏名 赤井田 祐宜
担当授業	マテリアル工 学科 3 年対象 科目名: マテリアル工学実験Ⅱ		
授業の担当教員名	太田 弘道		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。	課題の採点と質問への解答		
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例: 事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)	特になし		
3. TA 業務を行って新たに得られたこと (知識や有用な経験など) を記入してください。	マスマティカで知らない関数 を覚えることができた。		
4. その他、感想など自由に記入してください。	なし		

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、太田弘道 (図書館分館長室) に提出ください。提出締切は8月27日とします。

様式1 (TA学生用)

平成21年度(前期)ティーチング・アシスタント(TA)実施報告書

報告書作成日:平成21年 8月 27日

報告書作成者	物質工学専攻	学生番号 08NM527A	氏名 根本高志 (根本)
担当授業	マテリアル工学科 3年対象 科目名:マテリアル工学実験Ⅱ		
授業の担当教員名	太田 弘道 (鈴木 徹也)		
1. TA業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。	課題の採点、質問への回答		
2. 担当したTA業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例:事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)	予想外の回答が出た場合に、何故その解答が間違っているのかを説明するのが難しかった。		
3. TA業務を行って新たに得られたこと(知識や有用な経験など)を記入してください。	実験で使用したMathematicaは研究でも使用している言語だが、これまで知らなかった関数などを使っている場合があり、理解が深まった。		
4. その他、感想など自由に記入してください。			

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。

様式1 (TA学生用)

平成 21 年度 (前 期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日: H21 年 8 月 27 日

報告書作成者	物質工学 専攻	学生番号 09NM556N	氏名 竹ヶ原 圭介
担当授業	マテリアル工 学科 3 年対象 科目名: マテリアル実験II		
授業の担当教員名	稲見 隆 (鈴木 徹也)		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。	半導体の電圧・電流特性についての実験内容の説明と監督		
2. 担当したTA業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例: 事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)	半導体の電圧・電流特性について測定するときの学生一人一人の監督 半導体の電圧・電流特性についての内容を学生に分かりやすく説明すること		
3. TA 業務を行って新たに得られたこと(知識や有用な経験など)を記入してください。	学生に半導体の電圧・電流特性についての内容を説明することで、自分が同じ実験をした時よりも深く実験内容を理解できた。		
4. その他、感想など自由に記入してください。	人にものを教えることが楽しい体験でした。		

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

様式1 (TA学生用)

平成21年度(前 期)ティーチング・アシスタント(TA)実施報告書

報告書作成日: H21 年 8 月 26 日

報告書作成者	物質工学 専攻	学生番号 08NM533T	氏名 森 F 亨
担当授業	マテリアル工学科 3 年対象 科目名: マテリアル実験Ⅱ		
授業の担当教員名	鈴木 徹也		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。	鋼の焼入れ作業		
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例: 事前のオリエンテーションが不十分, 業務の内容が複雑すぎるなど)	実験中の移動が大変だった。 組織観察が出来なかったため 実験が終了するのが早かった。		
3. TA 業務を行って新たに得られたこと(知識や有用な経験など)を記入してください。	人に上手く手順を教える作業		
4. その他、感想など自由に記入してください。	去年と今年では状況が違ったので とまどいを感じていたが、上手く 実験することが出来た。		

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

様式1 (TA学生用)

平成21年度(前期)ティーチング・アシスタント(TA)実施報告書

報告書作成日: 2009年8月27日

報告書作成者	物質工学 専攻	学生番号 08NM502F	氏名 永井 祐宜
担当授業	マテリアル工学科 3年対象 科目名: マテリアル実験I		
授業の担当教員名	米村 雅雄 (鈴木 徹也)		
1. TA業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。	X線解析における理論値 の計算の補助		
2. 担当したTA業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例: 事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)	特になし		
3. TA業務を行って新たに得られたこと(知識や有用な経験など)を記入してください。	昔に学んだことを思い出す ことができた。		
4. その他、感想など自由に記入してください。	特になし		

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、太田弘道(図書館分館長室)に提出ください。提出締切は8月27日とします。

様式 1 (T A 学生用)

平成 21 年度 (前期) ティーチング・アシスタント (T A) 実施報告書

報告書作成日: 2009 年 8 月 31 日

報告書作成者	応用粒子線科学専攻	学生番号 08nm010r	氏名 菅谷 聡 
担当授業	マテリアル工学科 3 年対象 科目名: マテリアル実験 II		
授業の担当教員名	太田 弘道		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。		引張試験の試験片作製、実験補助。	
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例: 事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)		解析方法を分かり易く説明するため、ホワイトボードに解析の流れを図でまとめた。	
3. TA 業務を行って新たに得られたこと (知識や有用な経験など) を記入してください。		根本的な原理や試験方法を、正しく学び直すことができた。	
4. その他、感想など自由に記入してください。		指導方法を学ぶ良い機会になった。	

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、_____に提出してください。提出締切は 月 日とします。

様式 1 (TA 学生用)

平成 年度 (期) ティーチング・アシスタント (TA) 実施報告書

報告書作成日: 年 月 日

報告書作成者	応用粒子線科学 専攻	学生番号 08nm001s	氏名阿曾尾 一也 
担当授業	マテリアル工学科 3 年対象 科目名: マテリアル工学実験 II		
授業の担当教員名	友田 陽		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。		・装置の使用方法 ・データ解析の説明	
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例: 事前のオリエンテーションが不十分, 業務の内容が複雑すぎるなど)		事前に解析方法を作成すればよかった	
3. TA 業務を行って新たに得られたこと(知識や有用な経験など)を記入してください。		学生に装置を教える上で、装置の理解がより深まった」	
4. その他、感想など自由に記入してください。			

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。
- ・ この実施報告書は、太田弘道(図書館分館長室)に提出ください。提出締切は8月27日とします。

様式 1 (T A 学生用)

平成 21 年度 (前期) ティーチング・アシスタント (T A) 実施報告書

報告書作成日: H21 年 8 月 28 日

報告書作成者	物質工学 専攻	学生番号 08NM528T	氏名 畑山 修一
担当授業	マテリアル工学科 3 年対象 科目名: マテリアル実験 II		
授業の担当教員名	鈴木徹也		
1. TA 業務として行った授業の補助内容を記載して下さい。		実験方法の手順説明 実験装置の使用方法	
2. 担当した TA 業務の実施において、困難を感じた点や改善すべき点があれば列挙してください。また、自分で改善や工夫した点があれば列挙してください。(例: 事前のオリエンテーションが不十分、業務の内容が複雑すぎるなど)		分かりやすく伝えることが困難でした	
3. TA 業務を行って新たに得られたこと (知識や有用な経験など) を記入してください。		人とのコミュニケーション力	
4. その他、感想など自由に記入してください。		大変勉強になりました	

記入方法

- ・ 名前欄は手書きしてください。ワープロで作成する場合には、名前欄の後に捺印してください。
- ・ 必ず、報告書の作成日を記入してください。

授業コード	授業科目名	出欠	評価改善シート	改善Webシート	授業アンケート	TA関係書類
T8201	線形代数I	×	×	○	○	-
T8203	材料学総論	○	○	○	○	○
T8206	基礎数学演習	○	×	○	○	-
T8207	応用数学I	×	×	×	○	-
T8209	物理演習	○	○	○	○	-
T8210	材料組織学入門	○	○	○	○	-
T8211	量子力学基礎	×	×	○	○	-
T8213	計算材料学基礎	○	○	○	○	-
T8214	材料物理化学I	○	○	○	○	○
T8218	材料力学	○	○	○	○	○
T8221	マテリアル実験I	○	×	○	○	-
T8223	数理統計	○	○	○	○	-
T8226	エコマテリアル	○	○	○	○	-
T8228	表面・界面工学	○	○	○	○	○
T8229	材料組織学演習	○	○	○	○	-
T8233	塑性工学	○	○	○	○	-
T8236	材料電子物性学	○	×	○	○	-
T8237	電子・情報材料工学	○	○	○	○	-
T8240	マテリアルシミュレーション演習	○	○	○	○	○
T8242	セラミックス物性学	○	○	○	○	-
T8246	材料プロセス工学	×	×	○	○	-
T8247	材料システム工学	×	×	×	○	-
T8249	マテリアル実験II	○	○	○	○	○